

第28回 大好き いばらき 作文コンクール

受賞作品集



大好き いばらき 県民会議 / 公益財団法人 日立財団

第28回 大好き いばらき 作文コンクール

受賞作品集

大好き いばらき 県民会議 / 公益財団法人 日立財団



第28回 大好き いばらき 作文コンクール

【ねらい】

平成31年に本県において開催される「いきいき茨城ゆめ国体・ゆめ大会2019」に向け、未来を担う子どもたちに、茨城の豊かさや暮らしやすさ、伝統文化のすばらしさに加え、家族や地域との絆について考えてもらうことを目的に、「ここが大好き、私のふるさと、私の家族」をテーマに作文を募集し、個性と創造性に富む心豊かな人づくりの一助としたいと考えています。

【主催】 大好き いばらき 県民会議

【共催】 公益財団法人 日立財団

【後援】 茨城県 茨城県教育委員会 各市町村教育委員会 公益社団法人茨城県青少年育成協会 株式会社茨城新聞社 株式会社茨城放送 NHK 水戸放送局 毎日新聞水戸支局 読売新聞水戸支局 朝日新聞水戸総局 産経新聞社水戸支局 日本経済新聞社水戸支局 東京新聞水戸支局 茨城県学校長会 茨城県高等学校長協会 茨城県PTA連絡協議会 茨城県高等学校PTA連合会

【応募テーマ】 「ここが大好き、私のふるさと、私の家族」

【対象】 茨城県内に通学する小学生・中学生・高校生

【募集期間】 平成29年6月20日(火)～9月7日(水)

【応募数】

実施部門	応募数
小学校低学年の部	5,251
小学校高学年の部	7,696
中学校の部	9,365
高等学校の部	243
合計	22,555

【表彰】

茨城県知事賞	賞状及び副賞	4名
日立財団 小平記念賞	賞状及び副賞	4名
茨城県議会議長賞	賞状及び副賞	4名
茨城県教育委員会教育長賞	賞状及び副賞	4名
茨城新聞社長賞	賞状及び副賞	4名
大好き いばらき 県民会議 理事長賞	賞状及び副賞	35名
日立財団 奨励賞	賞状及び副賞	36名

【審査・選考】

※大好きいばらき作文コンクール審査会（平成29年10月4日及び10月19日開催）において選考委員：19名（専門家及び県民運動推進委員 毎年度委嘱）

委員長：川嶋 秀之（茨城大学教育学部教授）

副委員長：小野寺 浩幸（公益財団法人 日立財団 常務理事），堤 義男（大好きいばらき県民会議 専務理事）

委員：照井 康郎（茨城県教育庁総務企画部生涯学習課長），石井 純一（茨城県教育庁学校教育部高校教育課長）

森作 宜民（茨城県教育庁学校教育部義務教育課長），大高 茂樹（株式会社茨城新聞社 学芸部長）

大窪 修二（公益社団法人茨城県青少年育成協会 副会長），潮田 元男（茨城県生活環境部参事兼生活文化課長）

県民運動推進委員：山野辺 勉，爲我井 茂，池田 智子，根本 利隆，寺内 義興

島田 百子，森 賢禧，高橋 寄子，大久保 昌義，福間 智子

平成29年度

第28回 大好き いばらき 作文コンクール

受賞作品

茨城県知事賞	(4名)
日立財団 小平記念賞	(4名)
茨城県議会議長賞	(4名)
茨城県教育委員会教育長賞	(4名)
茨城新聞社長賞	(4名)
大好き いばらき 県民会議 理事長賞	(35名)
日立財団 奨励賞	(36名)

茨城県知事賞

守谷市立郷州小学校	三年	大平 顕	家族がそろう毎日……………	1
つくば市立桜並木学園並木小学校	五年	遠藤 心咲	私の夢……………	1
土浦市立土浦第三中学校	一年	山嶋陽菜乃	「魅力がない」ことこそ魅力？	2
茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校	一年	古谷 滯士	棺に入れた手紙……………	3

日立財団 小平記念賞

水戸市立吉沢小学校	一年	松縄 瑛希	はじめてのいばらきのなつ…	5
常陸大宮市立山方小学校	六年	佐藤慶之介	ぼくの「まち」自まん……………	5
茨城県立水戸特別支援学校	中学部一	石川 宙	私の家族……………	6
茨城県立水戸第三高等学校	一年	本馬ひなた	町と桜と……………	7

茨城県議会議長賞

日立市立宮田小学校	三年	平子 大悟	ぼくの大すきなじいじのパン	10
笠間市立稲田小学校	四年	柳橋 琴音	西茨城百km徒歩の旅にさん加して	10
つくばみらい市立谷和原中学校	三年	橋本 涼	茨城って最高だよ!?!……………	11
茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校	二年	藤枝 彩穂	我が家から発信！茨城県……………	13

茨城県教育委員会教育長賞

守谷市立高野小学校	二年	松丸 美紅	しょうらいのゆめ……………	15
ひたちなか市立平磯小学校	四年	軍司那奈葉	帰るところが二つあるわたし	15
土浦市立土浦第二中学校	三年	米川つかさ	祖父のためにも……………	16
茨城県立常陸太田特別支援学校 高等部一	高等部一	生天目真弓	将来の夢……………	17

茨城新聞社長賞

つくば市立島名小学校	三年	岩田明香里	私の町のおせんべい屋さん…	19
ひたちなか市立田彦小学校	五年	中村 月花	茨城ってすごい……………	19
茨城県立並木中等教育学校	二年	寺田 美郷	実はすごい茨城県……………	20
茨城県立水戸第三高等学校	二年	玉淵 南実	最下位脱出作戦……………	21

大好き いばらき 県民会議 理事長賞

阿見町立実穀小学校	一年	中島 悠斗	ことばついでいろいろあるんだな	24
筑西市立長讚小学校	一年	渡辺 優月	わたしのおとうとへ……………	24
阿見町立阿見第一小学校	一年	宮原 優菜	わたしのかぞく……………	25
八千代町立中結城小学校	二年	中山さくら	大すきな八千代……………	26
東海村立中丸小学校	二年	打越 隼翔	大すきなおじいちゃん……………	26
鹿嶋市立中野東小学校	三年	小澤 心香	大好きなふうちゃん……………	27
桜川市立樺穂小学校	三年	入江 悠介	お母さんのきゅう食……………	28
筑西市立長讚小学校	三年	武井 晏慈	うけついできたもの……………	28
結城市立結城西小学校	三年	登坂 太晴	おばあちゃんの結城つむぎ…	29
美浦村立大谷小学校	三年	椎名 実花	夢は日本一の「農ガール！」	30
ひたちなか市立長堀小学校	四年	福澤 柚乃	これまでの「わたし」をふり返って	31
つくばみらい市立陽光台小学校	四年	山村すずな	私の街の大好きポイント……………	32
つくば市立光輝学園松代小学校	四年	稲垣 貴厚	ぼくと生き物たちのふる里…	33
つくば市立桜並木学園並木小学校	五年	戸村 昂斗	自まんのおじいちゃん……………	34
守谷市立守谷小学校	五年	松井 智伸	守谷、ぼくを育ててくれたるまち	34
坂東市立弓馬田小学校	五年	石塚 悠斗	茨城県の高速度道路……………	35
つくば市立北条小学校	六年	町田 礼	ぼくの住む街……………	36
つくばみらい市立小張小学校	六年	松本 愛佳	伝統と共に……………	37
水戸市立石川小学校	六年	渡辺 真彩	おじいちゃんは黄門様……………	38
ひたちなか市立佐野小学校	六年	砂川 結良	私のお父さん……………	39

霞ヶ浦高等学校附属中学校	一年	根本 優真	茨城ブランドを世界へ……	40
茨城大学教育学部附属中学校	一年	柏 菜々美	伝えていきたいふるさとの良さを	41
常総市立石下中学校	一年	高橋 紅愛	茨城の自然と共に生きる……	42
常陸太田市立水府中学校	一年	菊池 麻見	茨城は私のふるさと……	43
常陸大宮市立山方中学校	一年	根本 紋	好きな年中行事……	44
つくば市立筑波西中学校	二年	飯村こころ	将来の夢……	45
日立市立助川中学校	二年	佐々木理紗子	様々な人と関わって……	46
水戸市立第一中学校	三年	川上 優月	大好きな茨城を知ってもらうために	47
龍ヶ崎市立城ノ内中学校	三年	大北 あい	私の自慢のふるさと……	49
茨城町立明光中学校	三年	石田 彩華	介護福祉士を目指して……	50
茨城県立水海道第一高等学校	一年	大島りのう	いばらきと私……	51
茨城県立水海道第一高等学校	一年	鈴木 柚南	すきなまち……	52
大成女子高等学校	一年	田所 陽奈	私の家族……	54
茨城県立下妻第一高等学校	二年	大川 真輝	故郷の祭り……	55
茨城県立水戸第三高等学校	二年	大平 夢叶	茨城の誇り……	57

日立財団 奨励賞

結城市立城南小学校	一年	杉山 隼斗	ぼくのおじいちゃん……	59
土浦市立中村小学校	一年	石川 理人	たまにあえたなつ……	59
稲敷市立高田小学校	一年	廣田 心美	やさしいけいちゃん……	60
高萩市立秋山小学校	二年	宇佐美七海	お兄ちゃんのキャラベン……	61
笠間市立友部小学校	二年	須藤 美音	わたしのゆめ……	61
北茨城市立大津小学校	二年	大山 詠士	大すき！お魚……	62
筑西市立嘉田生崎小学校	二年	富田 葉月	はこしまゆうすい池のおきにいりのこと	62
龍ヶ崎市立馴馬台小学校	二年	甘利 光麗	私のちかばあちゃん……	63
日立市立河原子小学校	三年	叶野 絢椏	わたしのかぞく……	64
常陸大宮市立大宮西小学校	三年	寺門利理菜	西ノ内わ紙「紙のさと」をたずねて	64
石岡市立三村小学校	四年	津賀 秋帆	霞ヶ浦をきれいにしてみ力度アップ！	65

筑西市立下館小学校	四年	小島 悠雅	ずっとなかよし三人組……	66
北茨城市立関南小学校	五年	神永 知輝	自然の恵み……	67
結城市立城南小学校	五年	岩崎結芽里	私の家族と合言葉……	68
かずみがうら市立霞ヶ浦北小学校	五年	小松崎大翔	こんなにイイ所があるのにな	69
北茨城市立中郷第二小学校	五年	鈴木 咲々	大好きいばらき……	70
つくばみらい市立陽光台小学校	六年	佐賀 幹	大好きいばらき……	71
常陸太田市立佐竹小学校	六年	助川麻愛弥	私のまち……	72
那珂市立木崎小学校	六年	大川みやび	大好き木崎小……	73
水戸市立渡里小学校	六年	阿久津紗良	兼六園と偕楽園……	74
那珂市立第四中学校	一年	加藤 澄華	私の中の茨城……	75
茨城キリスト教学園中学校	二年	高下 風花	希望をくれたものは……	76
日立市立泉丘中学校	二年	松本 駿佑	ひいばあからの贈り物……	77
茨城町立青葉中学校	二年	高橋 紗良	祖父の三回忌……	78
笠間市立友部中学校	二年	友部さくら	やさしさ。協力。思いやり……	79
水戸市立第三中学校	三年	山田 彩水	茨城で叶えたい、私の「夢」……	80
ひたちなか市立那珂湊中学校	三年	水越 有	家族の存在……	81
つくば市立吾妻中学校	三年	後藤 美穂	世界の縮図……	82
日立市立多賀中学校	三年	小太刀理子	私の大好きなまち……	84
那珂市立瓜連中学校	三年	黒須 結那	十年後の家族……	85
茨城県立友部特別支援学校	高等部一	磯貝 七海	将来の夢……	86
茨城県立下妻第一高等学校	一年	三谷 将平	大いなる筑波山……	87
茨城県立下妻第一高等学校	一年	木村 友乃	茨城の魅力……	88
茨城県立水海道第一高等学校	一年	青島 乃愛	私の幼馴染、私が住むまち……	90
大成女子高等学校	一年	亀井 美紀	これからの茨城に必要なこと	91
茨城県立常陸太田特別支援学校	高等部一	小又 加奈	「夢」の素晴らしさ……	92

はじめてのいばらきのなつ

水戸市立吉沢小学校 一年 松 縄 瑛 希

ぼくは、四がつにやまなしけんからみとしに、ひっこしてきました。うみに三十ぶんでいけるので、なつやすみにたくさんうみであそび、いろいろないきものをみつけました。

はじめていわばのうみへいったとき、ここでどんないきものがみつえられるかなとうきうきしました。ゴロゴロ、ツルツルしているいわばは、あるきにくかったけれど、うみのなかには、かいやかに、やどかり、ひとで、ちいさなさかながいました。さんかくぼうしのかいは、いわにくつついていて、てにのせたらぬるっとうごきました。くすぐったかったです。かには、つかまえたらぼくのをちくんとはさみしました。でも、つかまえられてよっしゃあとおもいました。やどかりは、つかまえようとしたら、すぼつとからだをかいのおうちにひっこめていました。つかまえてみていたら、くろいあしをだしてにげようとしていました。にげちゃだめっ、とおもいました。でも、かえるとき、うみのいきものだからうみにかえしてあげました。やどかりがうみにいっしょうけんめいもどろうとしていました。うみがだいすきなんだなおもいました。さみしかったけれど、うみにかえしてあげてよかったです。

はじめてのいばらきのなつは、うみでたくさんあそんで、うみのいきものをたくさんみれて、わくわくしました。いろいろないきものなまえをずかんでしらべていたら、もつといろいろないきものをみてみたくなりました。いえには、つれてかえれないけれど、また、うみにいってあたらしいいきものをさがしてみたいです。ぼくは、うみがたくさんあるいばらきけんをすきになれそうです。

ぼくの「まち」白まん

常陸大宮市立山方小学校 六年 佐 藤 慶之介

ぼくの住むまちは、茨城県の北部に位置する山沿いのまちです。NHKの朝の連続テレビ小説「ひよっこ」のぶ台になった地域です。十年余り前に五つの町や村が一つになって、常陸大宮市となりました。とても自然豊かな場所で、久慈川という大きな川が流れ、初夏から秋にかけて鮎つりの人々でにぎわいます。鮎がたくさんつれるので、まちには鯉のぼりではなく「鮎のぼり」があるくらいです。毎年、夏に「あゆの里まつり」というお祭りがあって、鮎のつかみどり大会や花火などで盛り上がります。山々では春は桜が咲き、芽ぶきのころはそれは美しく、山菜などの山の恵みもあります。夏は緑がおいしげり、夏の太陽に鮮やかに映えるのです。秋は木々が色づき、キノコなどもたくさん採れます。

農業、畜産業も盛んで、米や野菜の栽培、牛やにわとりを飼育し、牛乳や卵を出荷しています。それらは市場や農業協

同組合（JA）などを通して、スーパーマーケットや地元の道の駅などで販売されています。しかし、過疎化、高齢化によって年々それらにたずさわる人も減っています。多くの通う小学校の生徒数も四十年前に比べて半分以下になっています。とても残念に思います。

確かに都会のようにたくさんのお店があるわけではないし、とても便利な場所ではないと思います。電車は一時間に一本ぐらいしか走らないし、ポケモンGOをやっても、ほとんどポケモンは出てこないでポケモンはつかまりません。そうです。ぼくのまちはいわゆる「田舎」なのです。それでも、ぼくは胸を張ってぼくのまちを自まんしたいのです。田舎は田舎の素晴らしさがあります。

ぼくの両親はこの地域の生まれです。ぼくの先祖もずっとこの土地で暮らしてきました。ぼくの家近所の人たちは親切で、ほとんどの人が顔見知りです。学校の登下校のときもいつもあなたかく見守ってくれています。優しい人たちの住む美しいまちなのです。ぼくはこのまちで生まれ育ちとても良かったと思います。だから是非皆さんにもこのまちの素晴らしさを知ってもらいたいです。

私の家族

茨城県立水戸特別支援学校 中学部一年 石川 宙

ぼくの家族は、お母さんと二人です。ぼくのお母さんは、あまりおこらないです。テストで十点でも、テストを見直して、「この字をもっときれいに注意してかけばマルだったのに」と言ってテストをもう一度やりなおしてくれ。でも、お母さんがおこる時は、うそを言った時とゲームばかりやっている時です。

ぼくは、小五の時に学校でたおれました。脳内出血をおこし倒れてしまいました。病院の先生の話だと、「あと少しおくれたら、死んでいた」と言われたそうです。その時からぼくの命のリレーが始まりました。こども病院では、むずかしいと言われました。そして、つくばに連れて行かれました。お母さんは、毎日、ぼくのめんどうをみてくれました。手術の日の前の夜、ぼくは、お母さんに「いままで育ててくれてありがとう。」と言ったらお母さんが泣きながらぼくをすぐくおこりました。あんなお母さんをみたのは、初めてでした。お母さんは、「生きるために手術するの。今、負けたら自分から逃げているんだよ。」と、おこられました。二回目の手術が終わり、お母さんに「お帰り」と言われて、ぼくは、「ただいま。」と答えました。ぼくは、一週間してICUに入っ普通病棟に戻って「なにを食べてもいいよ」と言われ、お母さんは、半額品が好きなので、時間を見ていつも夜食を買いに行っていました。

それが入院している間の楽しい時間でした。二人でそんな悪いことをしていました。でも、それが楽しくて病院生活が楽しくなりました。

リハビリも最初は、いやだったけど先生がやさしくて、だんだん好きになりました。

そして、水戸の病院に戻った時は、お母さんが毎日病院に来てくれました。リハビリ入院です。

お母さんは、バスをのりついで来てくれました。お風呂に入れてくれたり、リハビリと一緒につきあってくれました。

そんなお母さんは、サザエさんと同じです。買い物に行つて、おさいふを忘れたり、ガードレールとけんかしたり、それで足をぬつたり、笑わせてくれます。そして、ぼくが、おちこんでいる時は、バカなことを言っていやな事を忘れさせてくれます。ぼくは、「お母さんなんで分かるの」と、聞いたたら、「お母さんには、目が四つある。」と、言います。うそだとぼくは思います。

後、お母さんは、ぼくがやりたいと言う事をやらせてくれます。ぼくは、料理が大好きです。お母さんは、「イクメンにする。」と言つてとなりについて料理をさせてくれます。ぼくは、カレー作りとマーボーどうふ作りが大好きです。それと、夏休みの間一つまた料理をおぼえました。それは、チャーハンです。「とてもおいしい。」と言つて、たくさん食べてくれました。ぼくは、料理が大好きです。左手がつかえなくても、大人になったら困らないようにいろいろ教えてくれます。

まずは、ちゃんとあいさつする事、そして何かをしてもらっ

たら「ありがとうございます。」と言ふことです。されたほうもうれしいし、ぼくもうれしいです。

ぼくの将来の夢は、「リハビリの先生になってふく話じゅつをおぼえて、つらいリハビリをしている子達が、いやがらないで楽しくしてあげる事。」それが夢です。それと、「お母さんを車にのせてあげる事」です。なぜかというところ、お母さんがドライブスルーがしたいと言うからです。

ぼくは、大人になったら、車の免許をとって絶対にやらせてあげたいです。

ぼくは、お父さんがいないけど、ぼくが、お母さんを守りたいです。

町と桜と

茨城県立水戸第三高等学校 一年 本馬 ひなた

「今年は雨みたいだね。」

年老いて開花が遅れている八部咲きの桜に、大きな雨つぶが降りそそぐ。毎年開かれるさくらまつりも、これでは人が集まらないだろう。私の地元、日立では駅前の桜が、春になると溢れんばかりに咲くことで有名である。大きな通りの両脇に並ぶその大樹は、いつの時代も人々の心をいやし、そして日立の町を見守ってきた。いや、見守つて、というより「護つて」きた。

今は封鎖されてしまった日立鉾山。元は赤沢銅山という名前だった。明治三十八年末に実業家の久原房之助が赤沢銅山

を買収し、地元である日立村にちなんで日立鉾山と名付けたのが始まりである。

日立鉾山が発展するにあたり、製鉄所から出る煙による被害が拡大していった。農作物が育たなくなり、樹木は枯れ果て、人々の生活に大きな打撃を与えたのだ。そこで植えられたのが、大島桜である。度重なる実験をこえ、大正三年には約百二十万本の苗木が植林された。大煙突が使用され、煙害の状況が一変すると、自然環境回復のため、大正八年春には神峰山へ植林される。これは今日でも、神峰公園から歩いていると生き残った大島桜を見ることが出来る。その後、住民へ苗木の無料配布が行われ、日立の町は桜で溢れんばかりに彩られた。

大島桜がうまく育つようになると、今度はソメイヨシノを接ぎ木した。市役所の後ろには、当時日立製作所の工場長だった高尾直三郎が建てた「桜塚」があり、その頃、諏訪台などにソメイヨシノが植えられた。諏訪台は鉾山の人達によって植えられ、成長し、日立最初の桜の名所となったのだ。

神峰公園ができ、日立に桜が増えてきた頃平和通りが完成する。ちなみに、平和通りに最初に桜が植えられたのは昭和二十六年四月三日と、最近である。戦争で荒れ果てた土地の再生を目的に植えられたが、実際、土地だけでなく、人々の心も再生していったのだ。

産業革命の時代、公害はあちこちで起こった。しかしそれを乗りこえたからこそ今があるのであり、日立も鉾山があったからこそ工場が発展したのである。だからこそ戦争で狙われたのもあるが：（実際に今でも、工場の地下深くには不発

弾が眠っているらしい。）

人の生活が自然を壊し、それによって人の生活が壊れ、新しい資源を求めて争いが起き更に悪化していく。まさに負の連鎖である。たしかに、人間の発展に犠牲は必要なのかもしれない。しかし、地球という全ての生物の財産を人間の都合で消費していいのだろうか。限りある資源を使っていた結果が今の資源不足であり、温暖化である。現在では科学技術が発展し、対策や少しでも食い止めようと様々な活動が行われているが、今後もどんどん資源不足や地球温暖化は深刻になっていくことだろう。そんなにさみしい世界でいいのだろうか。

十六年間桜の下で暮らしてきた私。うれしかった事も悲しかったこともあったけれど、幸せだと思う。

最近、画面の向こうの人と会話し、隣人にあいさつをしなかったり、平気で人を殺したりする話をよく聞く、同じ日本でなぜこんな事が起こるのが、不思議である。私の周りでは、失われつつある近所付き合いも活発だし、知らない人にもあいさつする。そのおかげで、震災の時も互い助け合い、乗り切ることができた。今でも、防災訓練や、小学生の登下校につきそってくれた地域の方々や、何かあった時に駆けこめる防犯の方々にはとても感謝している。鉾山のせいでも起こった公害、それで潤った生活、失われた自然、人々が協力して植えた桜。桜がつかないだきずなは、今もなお、この日立で受け継がれ続けているのだ。私が生まれるずっと前から育まれてきた生命の連鎖は、これからもずっと先まで続いていくのだろう。

失われつつあるもの、新しく生まれたもの、ずっと続いていくもの。桜はその長い寿命の中で人々の暮らしを見守り、命を護り、人と同じように親から子へと世代をこえ、日立のシンボルとして愛されつづけ、人と自然の共存を実現してきた。桜は、産業革命の礎であり、人とのつながりの象徴なのだ。どれだけ辛い時も、桜はその美しさで私達を元気づけてくれる。日立市民として次の世代へ過去を伝え、桜の魅力を教えることが、私達の役目だと思う。美しさの裏に、何があったのか、桜が何をしてくれているのか。そう考えるとまた一段と深い魅力が引き出せる。

私は、桜の元で生きてきた。これからも、桜はその花卉で人々に感動を与えることだろう。



ぼくのおじいちゃん

結城市立城南小学校 一年 杉山隼斗

ぼくのおじいちゃんは二つのかおをもっています。

一つめは、おはなやさんのおしごとのかおです。いつもきれいなおはなにかこまれておしごとをしています。たんじょうびのひとはなたばをつくったり、おはかまいりにいくひとは、いろいろないたりやかたちのおはながあって、おきやくさんのちゅうもんによってうるおはながうとおしえてもらいました。

二つめのかおは、からてのせんせいのかおです。ぼくはなんどかおじいちゃんがからてをおしえているどうじょうにれんしゅうをみにいったことがあります、おはなをうつていとるときとはぜんぜんちがうひとにみえました。しろいどうぎにくろいおびをしめて、ぼくとおなじくらのこどもたちからてをおしえていました。こえがちいさいとか、うごきがおそいかすごくきびしくおしえていました。ぼくはそれをみてとてもおどろきました。いつもやさしいおじいちゃんがちがうひとにみえました、とてもかっこよくみえました。でも、れんしゅうちゅうはきびしかったおじいちゃんもれんしゅうがおわるとみんなにやさしくこえをかけ、いつものお

じいちゃんにもどっていました。ぼくはそのとき、おじいちゃんに

「なんでれんしゅうちゅうはきびしいの。」

ときいたらおじいちゃんは

「からてはぶどうつていうんだよ。ぶどうはじぶんのからだところをきたえるものだからやさしくしてはじぶんにまけてしまっただよ。はやとのけんどうもおなじだよ。」

とおしえてくれました。

いつもやさしいおじいちゃん。からてをおしえているおじいちゃんは、すごかつこいいです。

たまにあえたなつ

土浦市立中村小学校 一年 石川理人

ぼくはいばらきけんがだいすきです。ぼくはこのなつプールでおじいちゃんにもらった「きれいな虫ずかん」にのつていたたま虫をみつけてすぐおどろきました。虫かごがないのでおかしのはこにいれて、いそいでかえました。なまえはたまにしました。ネットやずかんでしらべると、えのきのはがだいこうぶつでさくらやケヤキのはもたべるとかいてありました。えのきはききこではなく、こうえんやぞうき林にあることがわかり、ちかくのこうえんにさがしにいきました。でもさくらとちよつとあやしいはっばしかみつきりません。かんりのおじいさんにおねがいしてさくらをすこしもらいました。でもたまはたべませんでした。こまつてしらべ

たら、つつにたまをいれてはでふたをすると、かじってそとにでるしゆうせいがあるので人のあげたはっぱをたべるとかいてあり、たまにもやってみましたが、たべずにうまくだっそうしました。はをたべないとしんでしまうのでぼくはしんぱいでしぜんにかえすことにしました。プールではえさがないので、みんなでいっぱいかんがえておかあさんのかいしゃのちかくの森にはなすことにしました。森にちかづくときたまはきゆうにげんきになって、虫かごの中をあるきはじめました。ぼくにはごきげんでおおよろこびしてるようにみえました。森にはいるとあおすじあげはやしおからとんぼなどたくさんのおむしがいてたまもぼくもだいこうふんでした。ざんねんだけど、たまがおなかいっぱいたべられるといいなとおもいました。かいしゃにたま虫がきたとおかあさんにしゃしんをみせてもらいました。たまのともだちだったらひとりぼっちじゃないし、たまだったらごはんたべてるよとおしえにきてくれたのかもどちらでもうれしいです。虫がいっぱいいるいばらきけんにうまれて、ぼくはほんとうにラッキーです。

やさしいけいちゃん

稲敷市立高田小学校 一年 廣 田 心 美

「こごちゃん、いくよ。シートベルト、しっかりやってね。」わたしには、にじゅういっさいになる、としのはなれたおにいちゃんがあります。けいちゃんです。おとうさんとおかあさんができないときは、がくどうほいくやピアノのならいごと

のおくりむかえをしてくれます。

けいちゃんは、ずっと、バスケットボールをがんばってきました。わたしにも、

「なにかスポーツをしたほうがいいよ。スポーツは、こころがつよくなつて、たいせつななまがでけるよ。」

といいます。けいちゃんには、たくさんのともだちがいます。わたしにもやさしくしてくれるともだちです。いいなあとおもいます。なにかはじめようかな、でもまだかんがえちゆうです。

けいちゃんは、かんごしになりたいといつてだいがくにかよつています。ちいさいころからめんどうをみてくれた、おじいちゃんとおばあちゃんにおんがえしをしたかつたのだそです。でもいちねんまえにおじいちゃんはてんごくにいきました。けいちゃんは、ずっとそばにいてないていました。いまは、おじいちゃんのぶんもおばあちゃんのめんどうをみるといつて、まいにち、おばあちゃんのいえによつてから、がっこうにいきます。そしておじいちゃんのぶつだんのまえで、ながいじかん、てをあわせています。なにをいつていいのかちよつときになります。よる、ねないでべんきょうをしているときもあります。びょうきになつたりじこにあつたりしないかと、かぞくみんなでしんぱいしています。がんばつていいるから、ぜつたいかんごしになつてほしいです。みんなでおうえんしたいとおもいます。

やさしいけいちゃんは、わたしのもくひょうです。じまんのにおにいちゃんです。

お兄ちゃんのキャラベン

高萩市立秋山小学校 二年 宇佐美 七海

「あした、ぼくがキャラベンを作ってあげるよ。」

と言って、お兄ちゃんは、れいぞうこをのぞきこみました。

あしたは、夏休みさいしょのじどうクラブの日で、おべんとうをもっていくことになっています。わたしは、お兄ちゃんが、どんなキャラベンをつくってくれるのかなとワクワクしました。

あさおきて、かいだんをおりて行くと、いいにおいがしました。お兄ちゃんが、

「キャラベン、もうできたよ。」

とにこにこしながら言いました。わたしは、おべんとうの中がとも見てみたかったけれど、がまんしました。今見てしまったら、楽しみがなくなってしまうと思ったからです。

じどうクラブのお昼の時間になりました。

わたしは、ドキドキしながら、おべんとうはこのふたをあけました。それは、お兄ちゃんが大じにしている、さるのぬいぐるみのキャラベンでした。茶色のところは、しょうゆごはん、かおと耳のぶ分はしおごはんでした手はうずらのたまごでした。それから、わたしのすきなウインナーとブロッコリーも入っていました。

「わあ、かわいいね。いいなあ。」

とお友だちが言いました。わたしは、よろこんで、ほかのお友だちや先生にも、キャラベンを見せました。

たべるのがもったいなかったけれど、一口たべてみました。とてもおいしくて、うれしくなりました。

家に帰ってから、お兄ちゃんに、

「おべんとうおいしかったよ。ありがとう。」
と言いました。

こんどは、わたしが早おきをして、お兄ちゃんにおべんとうを作って、よろこんでもらいたいです。

わたしのゆめ

笠間市立友部小学校 二年 須藤 美音

「はる音は、わがままで、何もひとりできない。もつと、しっかりしなさい。」

と、言われているわたしのゆめは、かんごしさんになることです。

わたしのお母さんは、前、びょういんにつとめていました。入いんするかん者さんのお世話をするしごとをしていました。しごとから帰ると、その日のしごとの話を聞かせてくれました。それは、お母さんが、かん者さんにしごとでやさしくすると、かん者さんや家ぞくの人たちが、かならず、

「ありがとう」

と、言ってくれる話でした。

その話を聞いて、わたしは、なんだかとってもうれしくなりました。それは、お母さんのやったしごとに、かん者さんや家ぞくの人たちが、「ありがとう。」と、いつてくれたこと

が、わたしもうれしくなったからです。

びょういんではたらくしごとは、みんなから、かんしゃされるしごとなんだなと思います。だから、わたしも、びょういんではたらく人になりたいと思いました。

わがままで、何でもおかあさんやおねえちゃんにやってもらうわたしだけれど、がんばって、かんごしさんになれば、わたしも、みんなに「ありがとう」と、言ってもらえるかも知れないと思い、かんごしさんになりたいと思いました。

おばあさんにそのことを話すと、おばあさんが、

「かんごしさんは、むかしから、(白いの天し)と言われているんだよ。」

と、おしえてくれました。わたしは、ますます、かんごしさんになりたいと思いました。だって、自分のしごとが、みんなから「ありがとう」と、かんしゃされるだけでなく「白いの天し」なんてよばれるなんて、とてもすてきじゃありませんか。わたしのゆめです。

大すき！お魚

北茨城市立大津小学校 二年 大山 詠 士

ぼくの町は、おいしいお魚がたくさんとれます。ぼくはとくに、しらすと目光り、あんこうが大すきです。

ぼくのお父さんは、水さんか工のしごとをしているので、しらすほしやめひかりのひものを作ります。

しらすは、大きなながしそめんのようなきかいでゆで、

せいろにひろげてほします。しらすが、白いじゅうたんのようにキラキラ光ってとてもきれいです。ぼくも、しらすをはこにつめるとき、手つだいをします。手つだいながら、できたのしらすをつまみぐいすると、さいこうにおいしいです。目光りは、ぼうにさしてから、しお水につけて、それからほします。お母さんが、目光りをやきはじめると、いいにおいができてぼくはすぐにたべたくなって、そわそわします。たべるとかわはパリッと、中はふわっと、とてもおいしいです。

あんこうは、おじいちゃんがどぶじるを作ってくれます。水を入れないで作るので、あんこうのあじが、口いっぱいひろがって、何ばいでもおかわりをしたくなるおいしさです。このお魚のおかげでぼくはいま、元気にはじつたり、べんきょうしたり、みんなとあそんだりできるじょうぶなからだです。ぼくの大すきなお魚を、もつともつとたくさんの人にたべてもらい、おいしさや、この町のいいところをしつてほしいです。

はこしまゆうすい池のおきにいりのこと

筑西市立嘉田生崎小学校 二年 富田 葉 月

わたしは、はこしまゆうすい池がだいすきです。はこしまゆうすい池には、大きな池があつて、さんぽができます。わたしの家からすぐちかくなので、小さいときから家ぞくでよくあそびに行っています。春、夏、あき、ふゆとたのしめます。

春は、さくらとなの花がぜんたいにさいて、花見をしながらおべんとうをたべたり、さくらトンネルをはしりまわったりできます。春は、さくらのピンクとなの花の黄色がとてもかわいいです。

夏は、虫とりです。あさ早く行くと、かぶと虫やくわがたがとれます。でも、へびやはちもいるので気をつけます。きょ年、バタフライヤードで、ちょうやとんぼのことをおしえてもらって、めずらしいいろいろなちようのことがよくわかって、とてもすごいのはつけんでした。虫とりは、たのしいです。あきには、さくらののはっぱがだんだんおれんじ色になっておちてます。きょ年、たくさんひろって、家にもってかえて、たいせつにもっています。

あきとふゆには、ダイヤモンドつくばがみえます。ダイヤモンドつくばというのは、つくばさんのま上から、おひさまがのぼって、ダイヤモンドみたいに光ります。池の水にもおひさまがキラキラうつってみえます。わたしはふゆのあさ早くに、さむいけど、みに行きました。キラキラ光ってすくまぶしかったけど、とてもきれいでした。また行きたいです。ゆうすい池は一年かん、たのしいです。ことしもたくさんあそびに行つて、いろいろなはつけんをしたいです。

私のちかばあちゃん

龍ヶ崎市立馴馬台小学校 二年 甘利 光麗

ちかばあちゃんは、もうすぐ八十五才です。前は私の家で元気にくらしていたけれど、今は「ろうけん」という、しせつでくらしています。「ろうけん」とは、体のぐあいが変わくなつて、家で過ごすことができないうおじいちゃんやおばあちゃんが家に帰れるように、くんれんしながらすごすところだそうです。

ちかばあちゃんは、一人で歩いたり、おしゃべりをしたり、ごはんをたべることとか、おふろやトイレに行くこともできませんが、「かいごし」という、たくさんのお年よりをおせわをするひとたちのおかげで、気もちよくすごすことができます。ちかばあちゃんは、いつもだまっただまですが、それでも私がお見まいに行くと、ニコニコわらってくれるのがとてもうれしいです。その時は、車いすをおしたり、体をさすったり、ごはんをたべさせたりと、いろいろお手つだいをします。そして、そのあとでいっしょにおやつをたべるのも楽しみです。

そこでは、ほかのおじいちゃんやおばあちゃんたちともなかよしになりました。みんなでジャンケンやお紙をしてあそんだりして、帰る時には「もう帰るのかい？また来てね。」といつまでも手をふつてくれます。だから、私にはべつのおじいちゃんやおばあちゃんがいるような、ふしぎなかんじがします。

この夏休みのおわりに、私は「ろうけん」の夏まつりに家ぞくで行ってきました。たくさんのおみせが出て、やきそばやわたがし、かきごおりをたべました。そして、夕がたには「かいごし」さんたちでおどるソーランぶしがはじまり、ちかばあちゃんといっしょに見ることができました。少しの間でしたが、とても楽しかったです。いつか、ちかばあちゃんが家に帰って来て、またみんなでいっしょにくらせたらいなと思います。私はちかばあちゃんが大すきです。

わたしのかぞく

日立市立河原子小学校 三年 叶野 絢 椋

「おかえり。」

学校からわたしの家への帰り道におじいちゃんの家があります。わたしが小学校へ入学してから、いつもおじいちゃんがわたしの帰りをまち、と中までむかえにきてくれていました。

しかし、二年生になってからは、おじいちゃんがむかえにくることがなくなりました。びょう気で体の右半分が動かなくなり、びょういんに入いんしてしまっただからです。

長い入いん生活が終わり、おじいちゃんは家に帰ってききましたが、体の右半分は動かないままでした。

そのため家族で、おじいちゃんをささえることになりました。お母さんがおふろに入れたり、おばあちゃんは、おじいちゃんが食べやすいようになりよう理を作ったり、いっしょに

歩いてトイレへ行ったりしています。わたしと妹もおじいちゃんにしている事があります。それは、おじいちゃんをわらわせる事です。

自分で体が動かせない事や体がいたいことで、おじいちゃんには、つらい顔をすることがあります。そんな時、わたしは妹と二人でへんな顔をしたり歌を歌ってあげたり、かたをたいてあげます。すると、おじいちゃんはとてもよろこんで、声を出してわらってくれます。

わたしは、おじいちゃんをおふろにいれたり、りよう理を作ったりする事はできませんが、お母さんの手つだいができるようになりました。お母さんはとてもよろこんでくれます。

わたしはこれからも、家族がよろこんでくれる事をしていきたいです。家族がよろこんでいるすがたを見ると、わたしも幸せな気持ちになるからです。「おかえり」と、今ではおじいちゃんの声を家の中で聞いています。

西ノ内わ紙「紙のさと」をたずねて

常陸大宮市立大宮西小学校 三年 寺門 利理菜

去年、わたしは、西ノ内わ紙のすき絵体けんをしました。紙にふつうに絵をかくのとはちがって、わ紙に絵をかく時は、はり金のついたぼうやスポイトのような物を使ってかいたので、とてもむずかしかったです。でも、しあがった紙を見ると、やわらかい、温かいかんじがして、とてもかん動しました。

その体けんをきっかけに、わたしは、もつと西ノ内わ紙のことが知りたくなり、今年のそう合学習で調べることにしました。そして、夏休みに、わたしがすんでいるひたち大みや市にある「紙のさと」のかん長であるきく池さんにお話を聞きに行きました。わたしが話を聞いて一番おどろいたことは、わ紙が千年い上も前から作られていたことと、その紙を使って、ちょうちんやかからかさなどたくさん物を作っていたということとです。とくに、ぼうかん具やくすりを入れるふくろなどは、紙にこんにやくをぬって、さらにじょうぶにして使っていたと聞いて、びっくりしました。

また、心のこったことは、西ノ内わ紙が日本さい高品と言われていることです。紙の原りようであるこうぞをさいばいするのにおくくじの温どはちようどよく、より細く、短いせんいを作り、そのせんいがよい紙を作り出してくれるそうです。わたしは、ひたち大みや市で、日本さい高と言われているわ紙が千年い上も前から作られていると知り、とてもほこらしい気持ちになりました。

わたしは、帰りに店内を見てまわり、わ紙で作られたペーンケースを買いました。赤い色が気に入ったのですが、実さいに使用してみると、とてもやわらかく、使いやすいくかんじました。大切に使用していきたいです。今回「紙のさと」をおとずれて、西ノ内わ紙のすばらしさを知り、わ紙を身近に感じる事ができました。友だちにもつたえたいです。

霞ヶ浦をきれいにしてみ力度アップ！

石岡市立三村小学校 四年 津賀秋帆

わたしが住んでいる茨城県は、み力度ランキングのじゅん位がいつも最下位であるとテレビで話していました。

茨城県には、生産量が全国で一位になるようなおいしい野菜や果物、お肉もあるし、筑波山や袋田のたき、五浦海岸や霞ヶ浦など、観光地となる美しい自然もたくさんあります。それなのに、み力度ランキングでは、いつも最下位なのか、とても不思議に思いました。

わたしは、石岡市に住んでいます。近くに霞ヶ浦があつて、その周りには、水田やハス田が広がっていて、霞ヶ浦のゆたかな水のめぐみを受けているのだと感じます。

四年生になって、湖上体験学習がありました。わたしたちは船に乗って、湖の真ん中まで初めて行きました。船が止まると、水しつ調さを始めると、霞ヶ浦の水はにごつていて生ぐさいようないやなにおいがしました。

わたしは、茨城県のみ力が上がらないのはせつかくある海や山、湖などの観光しげんをさらに美しいものにして、よいところをみんなに知らせていかないなかなと思ひました。そして、霞ヶ浦をもっときれいにすれば、茨城県のみ力を上げることができるとは思ひませんでした。

湖上体験学習で、ビデオを見たり、先生の話聞いたたりして、湖をよごしているのは自分たちだということに気が付きました。だから、今の自分にできることをして、湖水よくが

できた昔のように、霞ヶ浦をきれいにしていきたいと考えました。

そのために、わたしが、家で実せんしていることは、食事の後に食器のよごれをティッシュでふきとることです。たった一てきのしょう油の汚れをきれいにするために、とてもたくさんの水を使うと聞いたからです。これからは、学校でも給食の食器をきれいにふいてから返したり、食べ残しをしないようにしたりしたいです。そして、きれいになった霞ヶ浦に、たくさんの人たちが来てくれたらうれしいです。

霞ヶ浦では、ワカサギをとることができません。昔は、コイのようしよくもさかんだったそうですが、水のごれが進んで、今は、ワカサギも少ししかとれなくなってしまうそうです。わたしは、ワカサギのからあげが大好きです。水がキレイになって、水草がふえワカサギのすみかや卵を産み付ける場所がふえれば、ワカサギもふえて、たくさんとすることができるようになると思います。

このように、霞ヶ浦がきれいになれば、来てくれた人たちは、きつと、やわらかくてあまいレンコンやぷりぷりのワカサギのおいしさ、観光帆びき船の美しさに茨城のみ力を見直してくれるようになると思います。

わたしは、これからも自分にできることを続けて、茨城県のよさを一人でも多くの人たちに知ってもらえるようにしていきたいです。

ずっとなかよし三人組

筑西市立下館小学校 四年 小島 悠雅

ぼくにはようち園からなかよしの友達が二人います。もう七年の友達です。いっしょにいと落ちつくし、ふざけたり同じことでわらえたりします。

小学校とようち園がとりにあるので、ようち園のときの先生に会うと、

「三人がいっしょにいるすがたを見るとほっこりするな。」と言われました。ぼく達はせのじゅんも三人ならび、にいてるところがたくさんあつたのでそのころはケンカをしたことがありません。

小学校に入つて、みんなクラスがべつべつになつてしまつたとき、ろうかや休み時間しか遊べなくてさみしかつたです。でも、三年生のクラスがえで三人が同じクラスになれたとわかつたとき、うれしさのあまり声も出ませんでした。家に帰つてお母さんに伝えたとき、少しなみだを流したのをおぼえています。

足が速くて頭が良いA君は、わからないところを聞くと教えてくれてとてもたよりになります。字がきれいで野球もがんばつていてすごいです。どんなことにも一生けん命なところをぼくは見習おうと思います。

もう一人の友達のFくんは、いつも落ちついていて、人の話を聞いてまわりをみて行動していきちんとしています。そして、自分よりも相手のことを考えられる人で、とてもや

さしいです。

そんなほく達にも話さないときがありました。Aくんは、土日野球をしているのでいつも野球の話ばかり、ほくは野球が上手ではありません。投げるのも打つのも得意じゃないし、足もおそいので楽しめなかったからです。おもしろい話じゃないから近くに行かないほくをAくんはいやがられていると思ってしまうみたいで、おたがい他の子といっしょにいました。Fくんは変だなと思ったみたいでとても気にしてくれました。

一か月ぐらいたってから、Aくんと三人で話す時間ができました。最初はとてもてれくさくて、なかなか言葉が出てこなかったけれど、目が合ったしゅん間ニコニコして、おたがいがどんな気持ちでいたのかを話すことができてなか直りができました。ホッとしたのはFくんです。どんなときも一しょにいた三人組がまた遊べる日がきたことをFくんが一番喜んでくれました。

友達だけど、相手の気持ちかわからないこともあるんだなと知りました。新しい友達ができることもうれしいことだけど、大事にしたい友達なのでこれからもずっとなか良しでいられたらなと思いました。

自然の恵み

北茨城市立関南小学校 五年 神 永 知 輝

ほくの好きな食べ物は、メロンとなっ豆と玉子かけご飯です。メロンとなっ豆とけい卵は、茨城県が生産量日本一だということを知ったときは、本当にうれしかったです。

メロンは、ほこ田市に住んでいる親せきのおばさんが毎年送ってくれます。しゅうかくの時期が来ると楽しみでも待ち遠しいです。ほくは、メロンの種類の中では、イバラキングというメロンが一番好きです。すごく甘くて、果肉がたっぷりです。ジューシーだからです。イバラキングは、茨城のオリジナルの品種だそうです。夏は、アールスメロンを送ってもらいました。一株から一個しかできない高級品です。妹が幼稚園のころ、メロンをかかえて家の中を走り回り、床に落としてしまったことがありました。そのときほくは、すごくおこりました。ですの、今は妹のわからないところに大切に保管してあります。

次に、なっ豆は、ネバネバと栄養満点なので好きです。かしをたっぷり入れて、ご飯にのせて食べたり、なっ豆だけを最後に食べるのが好きです。モリモリ食べられます。なっ豆は、カルシウムの力で骨を太くし、健康にたもってくれます。胃腸のきんをバランスよくしてくれるので、なっ豆きんのおかげで消化がよくなるそうです。お母さんは、

「なっ豆は天然の胃の薬、ということわざがあるんだよ。」
と言って、胃の調子が悪いときに、なっ豆を食べています。

胃にやさしくて、きき目があるそうです。

玉子かけご飯の卵は、おばあちゃんがほこ田市の農園から、お取り寄せをしています。いつも生みたて卵がとどきます。黄身は大きく、おはしでつかむことができます。満月みたいに、オレンジ色の黄身でもこいあじで、おいしいです。玉子かけご飯に、しょう油をちよっとだけかけて食べるのもおいしいのですが、ふりかけをかけて食べるのもひと味ちがつておいしいです。いつもより早いペースでご飯が進みます。その卵でおばあちゃんが作った目玉焼きと玉子焼きも大好きです。色もあざやかで、フワツとしています。目玉焼きの黄身はお皿の上でプルプルとしています。

ぼくの好きな食べ物は、茨城の恵まれた自然の中で大切に育てられています。茨城は、海も山も湖も川もあります。これからも、たくさん茨城のみ力を頭と身体にきゆうしゆうし続けたいと思います。とても楽しみでワクワクします。

私の家族と合言葉

結城市立城南小学校 五年 岩崎 結芽里

「いってらっしゃい。気をつけてね。」

「うん、いってきます。」

私は何気ないやりとりが、できた後、家族っていいなって思えます。なので、出かける時の送られる人、送る人の家族とのエピソードをそれぞれ紹介したいと思います。

私の家は、四人家族です。お父さん、お母さん、弟でくら

しています。

お父さんは、口数が少なく、話を落ち着いて聞いてくれるので、友だちの事などを相談するのは、最初はお父さんと決めています。

仕事の関係で、家を出るのが早朝や、深夜だったりするお父さんの「いってきます。」は、もちろん返事はありません。それでも、必ずひとり言みたいにつぶやくそうです。それは、お父さんいわく（がんばってくるよ。）の代わりだそうです。私はそれを聞いてから、自分が見送れる時は玄関をいっしょに出て、お父さんの車が見えなくなるまで力いっばいの声で、応えんするように見送ります。

「がんばってね。いってらっしゃい。」

そうするとお父さんは、うれしくてつらい仕事も、がんばれると言ってくれます。

三才年下の弟は、女の子にまちがわれる程かわいい顔をした、むじゃきな男の子です。ケンカして、くっついて遊んで、お母さんの取り合いをして。でも、私の相ぼうです。

私が宿泊学習へ出発した朝の弟は、元気なただ手をふっていました。後でお母さんに聞いたのですが、私が帰らない日の夜弟が、

「お姉ちゃんいない。さみしい。」

と泣いてしまったそうです。それを聞いて、私は、ちよつぴりうれしく思いました。

（うまく「行ってらっしゃい。」が言えなかったのは、さみしい気持ちがあったからだ。）そう思えたら、弟が愛おしく感じました。

「大丈夫だよ。がんばれ、大丈夫。」

これは、うちのお母さんの口グセです。私は生まれつきスローペースで、何かで失敗するとすぐ落ち込んでしまう性格なので、いつもお母さんは私の背中をおしてくれたり、大事な言葉を伝えて見守ってくれています。

登校で、家を出る時も、必ず玄関の外で手をふってください。小学校に上がってから今まで、雨でも雪でもずっと変わりません。会社に向かうギリギリの時間なのに、車にも乗らないで、決まってこう言います。

「いつてらっしゃい。がんばろうね。」

時々ちよつとはなれた所から、お母さんを見てみると、まだうれしそうに手をふっています。私と弟は、くすつと笑って元気に学校に向かえるのです。

きっと世界中にこういう風景があつて、家族の優しさとか、安心を毎日感ずることが出来るのかなと、思います。

だから一日の始まり、私の家族の合言葉は毎日「いつてきます。」から、始まります。

こんなにイイ所があるのにな

かすみがうら市立霞ヶ浦北小学校 五年 小松崎 大 翔

ぼくが住んでいるのは、茨城県かすみがうら市です。家の近くには、田畑が多くあり、緑がゆたかです。そして、日本で二番目に大きい湖霞ヶ浦もあります。漁業は帆びき船で知られています。かすみがうら市では、毎年四月に、かすみ

うらマラソンが開かれています。東京マラソンの次に日本第二位の規模の市民マラソンです。

茨城県は、野菜や果物の生産でも有名です。蓮根、セリ、ピーマン、卵、梨、栗、芋、メロンなど生産量一位の物もたくさんあります。加工食品などは、納豆や干し芋も多く作られています。その他県内には、アクアワールド水族館、国営ひたち海浜公園などのレジャー施設や筑波山、袋田の滝、水戸偕楽園のような有名な場所もあります。土浦市では、毎年十月に、土浦全国花火競技大会もあり、きれいな花火を見に多くの人がやって来ます。

そこで今回ぼくが気になった事は、どうして茨城県がワースト一位なのかです。食べ物も施設も充実していると思うのですが。調べたり、家族に聞いてみたりしたところ、交通の不便さが大きく関係しているのではないかと思いました。公共交通機関で行けない場所が多い事、路線バスの本数が減った事などです。車がないと行きたい所に行けないという不便さは、小学生のぼくでも感じます。その結果、施設が充実しているても、駅から遠い、バスが出ていない、では、必ず車が必要となってしまう。

どうしたら人気が出るかをぼくなりに考えてみました。まずは、自分自身が茨城県のことをよく知り、好きになることが大切だと思います。そうすれば、きょう味を持った事をどんどん伝えて行く事ができるからです。そして観光に来てくれた人たちに気持ちよく楽しんでもらうために、自分の住んでいる所はもちろん、一人一人がそうじなどを積極的に取り組む必要があると思います。他には、小さな弟がいるぼくの

家でもそうですが、家族連れや、年齢層に合ったレジャー施設を組み合わせたバスツアーなどを企画してみたらいいと思います。食事ができ、遊べて、お土産が買える所に一度に行けたら、楽しみも増えると思っただからです。バスツアーなら、いつも運転をしてくれるお父さんにもゆっくりしてもらえらると思います。バスを利用する事で自然あふれる茨城県の景色も見てもらいたいです。自然が多いからこそ、美味しい野菜や果物が育つ事にもつながっていると感じたからです。

自然を守り、良い所を広める活動などに、積極的に参加しながら、ぼくはこの茨城県で育っていききたいです。

大好きいばらき

北茨城市立中郷第二小学校 五年 鈴木 咲々

私が住む北茨城市は、茨城県の一帯北にあります。豊かな自然からとれるおいしい食材、北茨城ならではの焼きものなど有名な特産物がたくさんあります。また、北茨城市には、あんこうでも有名な大津港・平潟港があります。ここでは、サバ・イワシ・シラス・コウナゴなども水揚げされ、鮮魚はもちろん、干物やさつまあげなどの水産加工品も多く作られています。その中でも、あんこう鍋は平成二十六年築地市場で開催された鍋グランプリで見事グランプリを獲得したほどです。まだ食べたことのない人にも、ぜひ一度北茨城市に足を運んで食べに来てほしいです。私の住む北茨城市に限らず、茨城県はおいしい食材にあふれています。全国の中でもれん

こん、白菜、ピーマン、みずな、チンゲンサイなどが生産量上位の野菜として知られています。他にも、メロンやナシなどの果物も有名です。

みなさんは、茨城県という何を思い浮かべますか。

私は数ある食べ物の中でも、茨城県といえばやはり水戸市の「納豆」を思い浮かべます。納豆をあまり好んで食べない県もあると聞きますが、私は茨城県の納豆が大好きです。

しかし、茨城県は、残念ながら全国の人気投票で、あまり上位ではありません。同じ北関東と比べても、栃木県には日光、群馬県には草津温泉など全国でも有名な観光名所が数多くあります。私は茨城にも何か他県にはない観光名所がないかこの機会に調べてみました。すると、茨城県は「巨大な建築物が多い」ということに気づきました。水戸市にはこの地域に伝わる巨人伝説の「ダイダラボウ」に会える公園があります。その像は、高さ十五メートルを超え、なんと鎌倉の大仏よりも大きいそうです。そして、他にも高さ百二十メートルの「牛久大仏」や日本一大きな地蔵、日本一大きなシシがしら、水戸の町が一望できる「はに丸タワー」など巨大建造物も見ごたえがあると思います。

特に私のお勧めは、今では毎年開催されているROCK IN JAPAN FESTIVALの開催地、「ひたち海浜公園」です。「死ぬまでに行きたい世界の絶景」という本にも紹介されたほどです。春には一面にネモフィラという青い花が広がる、みはらしの丘の光景はとつてもきれいです。そして、秋には、丸くふわふわとしたココアが真っ赤に紅葉するのです。他県に旅行などで行くと、思いがけず今まで知らなかった

食べ物や郷土料理などを知ることができたり、行かなければ分らなかつた景色を見ることができたりします。茨城県に行つたことがない人にも、一人でも多くの人に茨城県の良い所を知ってもらえたら嬉しいです。

大好きいばらき

つくばみらい市立陽光台小学校

六年

佐賀

幹

ぼくは一歳半から茨城県つくばみらい市に住んでいます。つくばエクスプレスが通り、父の都内への通勤にも便利なので、引越して来たそうです。ぼくには茨城に来てからの記憶がありませんが、それでもこれからずっと茨城にいたいと思うのです。それはここで将来の夢を考えられるようになったからです。

ぼくは将来、色々なアレルギーで困っている人の薬や機械を開発する人になりたいと思っています。ぼくも小さい頃からアレルギー性鼻炎に悩んでいて、ほぼ一年中鼻をかんでいて、その人たちの大変さが分かるからです。

それでぼくは今、勉強を一生けん命がんばっています。たくさんの方の知識があった方が新しいものを開発できると思うからです。すぐにくじけそうになりますが、ぼくの小学校には同じように勉強をがんばっている友達がたくさんいて、自分だけじゃないと思うとまたやる気がわいてきます。

茨城県には研究学園都市のつくば市もあり、そこには大きな研究所などがたくさんあって、そういうものを見ると、僕

も一緒にやってみたいなあと思うのです。

ぼくは今、周りに恵まれて夢に向かえているなと思っています。友達にも将来の夢を持っていてる人がいて、かしこい人がたくさんいるので話しているとても楽しいです。ニュースの話もよくします。例えば全国各地で起こっている異常気象のことか、北朝鮮のミサイル発射のことなど、茨城にも影きょうのありそうなことも出てきます。ぼくが興味のあることだけでなく、知らないこともいっぱい友達と話してくれます。学校の帰り道ではくだらない話もよくします。シャーペンを分解してみた話やこわい話などです。リアルに、そしておもしろく話してくれるので、思いつ切り笑ったり、びっくりしたりして、興奮した後にはまたスイッチが入って勉強をする気がわいてきます。友達にはタイムマシンとして、時には友達として、自分の周りにいてくれる大切なものです。

また、家の周りにはお店もたくさんありますが、自然もまだまだたくさん残っています。夏にはカブト虫やクワガタ虫などの虫をいっぱい採りに行きます。近くにはコミュニケーションセンターもあって、好きな本をたくさん借りたり、バトミントンなどをしたりすることができます。これもぼくのスイッチを入れかえる大切なものです。

この色々な大切なものに囲まれながら、自分の夢をかなえて、素晴らしい環境の茨城を他の県の人たちにも伝えていきたいです。

私のまち

常陸太田市立佐竹小学校 六年 助川 麻愛弥

「今年は、おじいさんたち何の劇をやるのかな。」

陸上の練習が終わると、私たちはお祭りの話で盛り上がります。

もうすぐ私の住む町のお祭りです。町内会のおじいさんやおばあさんを中心に、夏祭りやもちつき大会など季節ごとにいろいろなイベントを開催してくれます。私は毎年、夏祭りで行われる、おじいさんたちの劇を楽しみにしています。

今年は、「花咲かじいさん」の劇でした。おじいさんたちの熱演に、いつもおなかを抱えて笑い転げてしまいます。やっぱり今年も大きな笑い声が会場いっぱいに広がりました。

私のお年寄りには、とっても元気です。毎朝、私たちが登校する時に、交差点や家の門の前に立って見守ってくれます。なかには、友達のように名前を覚えてくれる方もいます。おじいさんたちは、毎日「いってらっしゃい。」「お帰り。」「大きくなったなあ。」など、たくさん声をかけてくれたり、あいさつをしてくれたりします。だから、私たちも元気に大きなあいさつができるようになりました。

また、私の友達のおじいちゃん、おばあちゃんは、畑で野菜を作っています。そして時々、おすそ分けをくれます。優しいおじいちゃんとおばあちゃんがいていねいに作った野菜はとってもおいしいです。野菜がちよっぴり苦手な妹も、おすそ分けの野菜は、おいしいと言って食べています。

今年も、夏祭りはどんどん進んでいきます。カラオケ大会になぞなぞ大会、じゃんけん大会、ヨーヨーつりに金魚すくい、スイカ割大会や輪投げと、楽しい遊びが満載です。そして、一番楽しみな劇が終わると、手持ち花火でファイナーレとなります。

今年の花火は、たくさん種類がありました。クルクル回転する花火、煙がもくもく出る花火、キラキラ光ってとてもきれいでした。でも、煙が出る花火は、変なおいがして、「あちゃー、これは失敗だったな。」と、おじいさんたちは大笑いをしていました。

いつも地域の人たちが笑顔で暮らせるようにと、様々なイベントを企画したり、私たちを見守ってくれたり、私の町のお年寄りは、忙しそうです。

どうしてこんなに元気なのだろうと考えてみました。きっと、田んぼが広がり、カエルやザリガニなどの生き物がたくさん住む、自然豊かな町で、優しい心と強い体が育ったからだと思います。

私の住むまちには、豊かな自然と元気いっぱいのお年寄りの笑顔があふれています。

私は、そのお年寄りの皆さんに、もっと長生きしてほしいと思います。だから私は、皆さんに元気いっぱいの大きな声であいさつしたり、学校での出来事をお話ししたりしてたくさんふれあいの時間を持ちたいと思います。

大好き木崎小

那珂市立木崎小学校 六年 大川 みやび

私を通う木崎小学校は、今年百四十五歳になる児童数八十七名の小さな学校だ。

祖父も母も姉も木崎小学校を卒業している。

小さな学校なのでクラスがえもない。

週一回の縦割り班遊びや、縦割り班でおこなう毎日のそうじなど、一年生から六年生まで一緒に遊んだり、協力して生活できる学校だ。

そんな木崎小学校での生活は、私にとってあたりまえのこととて、幸せなことかどうかなんて考えたこともなかった。

母と姉にさそわれこの夏、宮城県旧大川小学校のボランティアに参加し、今自分が毎日学校に通い友達とすごせることは、幸せなことなんだと気づいた。

「せっかくの日曜日なのに、寝坊もできないなんて。いやだな。草とりなんて学校だけで十分。」そんな気持ちだった。早朝バスに乗り大川小学校へ向かった。初めて見る大川小は、ここが本当に学校だったのだろうかと思うようなものだった。

天井は、押し上げられ、壁は無く窓ガラスも無い。残った壁と一緒に黒板を見るまでここが教室だったと分からなかった。

この時、初めて津波のこわさを知った。水圧のすごさを知った。

ここで私達と同じように勉強したり、遊んだりしていた小生がいたのだと想像することはできなかった。

母と姉にさそわれた時、「行きたくない。」と思ったことをはずかしく思った。

校舎前の草を取り花を植えた。木崎小学校と同じくらいきれいにしようと思った。

学校でも委員会活動で草取りや花の手入れはやっていて、大丈夫だろうと思ったがやってもやっても木崎小と同じようにはならない。三時間ほどの活動では、足りなかった。

まだまだ、やることはいっぱいあるなと思っていたとき、大川小の近くの方の話聞いた。

「上ばきを見つけたんだ。」

子供が震災の時、今の私と同じ六年生のお父さんだった。今私は、毎日学校に通い先生や友達と一緒に遊び学んでいる。

木崎小での生活を特別楽しいとか、学校が大好きとか考えず、学校に行くことがあたりまえだと思っていた。

だから、通学の距離が遠くて大変、教室にエアコンが無くても暑いと、不満に思うことがあった。でも、そんなことどうでもよいことだった。

毎日学校に通えなくなったらと考えると悲しくなった。

百四十五歳の木崎小。そこは、毎日私をあたたくくむかえてくれる。私を育ててくれる。

大好き木崎小。毎日を、ありがとう。

兼六園と偕楽園

水戸市立渡里小学校 六年 阿久津 紗 良

今年の家族旅行は、小学生最後の夏休みとなる私の意見を取り入れてくれる事となり、迷わず福井県の恐竜博物館を中心とした計画となりました。どうせなら、石川県まで足をのばし、金沢市の兼六園等を観光してこようと父が提案しました。水戸の偕楽園は慣れ親しんでいる場所であると共に日本三名園の一つ。兼六園と見比べてみようという事も旅のテーマの一つとなりました。

「雪つりが見られる冬の兼六園の方が風情があるんだけどなあ」
と父は言いましたが、夏でも観光客がたくさん来ていました。粹をきわめた大名庭園とあって園内は曲水や数々の池があり、歩くと水音と共に、季節ごとの木や花が見られるように配置されていて、いつ来ても楽しめるように工夫されているのがわかりました。興味を引かれたのは梅林のある庭です。梅の木の側に萩が植えられていて、小さな花をつけ始めていました。そこで、ふと「偕楽園と同じだな」と思うと同時に「偕楽園ですごいんだな」と改めて思ったのです。

確かに兼六園は見せ方が豪華でした。どこを見ても緑と水と橋があり、写真を取るのに困らないような美しい庭でした。それに比べると偕楽園は地味です。梅の時期こそ華やぎますが、園内の建物も質素で、ここで写真を取るべしという感じの場所は少ないです。作りに作りこんだ庭が兼六園ならば、

偕楽園はとても自然体で、堅苦しくなく解放的に感じます。きつと、殿様の考え方の違いが大きく表れているのだと思います。「民と偕に楽しむ」という斉昭公の趣旨が今なお受け継がれている、それが偕楽園の最大の魅力です。

実際に兼六園をみてきたおかげで水戸の偕楽園の良さが実感としてわかりました。うっそうとした竹林をぬけ、暗い杉林をぬけると、どこまでも明るい広々とした梅林が目の前に広がる、恐がらせたり、ホッとさせられたりする不思議な道があります。夏でも涼しく、秋には紅葉が入り込んで美しい吐玉泉。秋の萩、月見の宴、冬の寒さにほころび初める紅梅の梅、好文亭から見る千波湖と桜など、四季それぞれに見所のある偕楽園は、地元水戸市民のオアシスです。

私達の生活に密着した場でもあるため、その素晴らしさがよくわかっていなかったように思いました。早春の梅まつり期間だけでなく、他県の人達にもっと偕楽園を知ってもらうために、水戸市はもっとアピールすべきだと思います。梅は学問の象徴であり、飢饉や戦の非常食を確保するためだった事を知りました。歴史を知ると偕楽園の違う面も見えてきて楽しいです。そして、梅の季節以外の楽しみ方をよく知る市民の声を生かして、一年を通していつ行っても見所があると言ってもらえるよう偕楽園を他県や海外の人達にも知ってもらうため、うれしいと思います。

私の中の茨城

那珂市立第四中学校 一年 加藤 澄華

茨城弁は、とても身近なものです。父や親戚もよく言います。ですが、私も含め若い人達が茨城弁を口にする事は、なかなかありません。

私が茨城弁について考えるきっかけになったのは、父の言葉です。テレビで「ひよっこ」を見ていたときでした。

「茨城弁ニュアンスが違うね。」

ひよっこのセリフで、茨城弁がよく出てきます。しかし、その舞台は奥茨城ですが、私たちが住んでいるところは那珂市です。北の方と中央地区では、微妙に違うらしいです。私は全く分かりませんでした。自分の育ったふるさとなのにと、少しさみしい気持ちになりました。

確かに、茨城弁は身近なものです。それでも、以前より耳にする機会は減りました。私がニュアンスの違いに気づかなかったのも、若い人達が言わないのもそのせいです。私は、このままいくと、いつか方言は無くなってしまおうだろう、と思いました。大好きな茨城の個性が消えていってしまうのは、とてもいやです。でも、私の口から自然に出てくるものでもありません。

そんなもどかしい気持ちでしたのですが、ある日、吹奏楽の顧問の先生にとっても驚くことを言われたのです。

「演奏が茨城弁みたいになってるよ。」

私は最初、意味が分かりませんでした。そして、先生の説明

を聞いて、目を丸くしました。演奏で、小節の中のどの音に重きを置くか、というのが、茨城弁のようだと言うのです。一、二、三、四、と、カウントしてみてください。普通は、一にアクセントがつくのですが、茨城弁では、四にアクセントがつくのです。音楽では、基本は一です。私は自然と笑顔になりました。先ほども言ったように、自分の口から自然に茨城弁が出てくることはない、そう思っていたのに、違ったのです。音楽以外でも、例えば体育の準備体操なんかもそうです。そうなられしい「癖」も、吹奏楽部に入ったからには直さなければなりません。頑張ります。

その後、愛知県出身の母にさういうと、

「茨城の人って、イントネーションも違うよね。」

と言われました。私は以前より、茨城と仲良しになったように感じました。自分の中に、思っていた以上に「茨城」がありました。

でも、そんな細い糸しか残っていないのなら、やっぱり無くなってしまおう、と不安になり、調べてみました。方言のない地域はなくて、全国の言葉が同じになることはないそうです。私は、その地域独自のものや、盛んなものについての言葉は、消えることはできないのかもしれない、とも考えました。そうしたら、少しほっとしました。

また、方言を音声で残すという取り組みも行われているそうです。そういった活動をどんどんしてほしいと思います。完全になくなることは難しいです。でも、そんな活動をしているという地域愛に感動しましたし、日常的には使わなく

なつてしまつても、そこで残されている、というだけでとてもうれしいです。

今回この作文を書いて、今までより茨城に親しみをもつことができました。夏休みの課題でこういういったものを出したり、授業でその地域についての調べ学習をしたり、地域の伝統を守るための取り組みを行つたりする。そういうことで守られていくものがあると思います。私でもできることを、茨城のためにしていきたいです。それから、アクセントやイントネーションなどの「隠れた茨城弁」を友達に話そうと思います。そして、自分の中の「茨城」を、感じてほしいです。

希望をくれたものは

茨城キリスト教学園中学校 二年 高 下 風 花

絶望。人生で誰もが一度は味わうと思います。私は小五から六年にかけて嫌という程絶望感を味わいました。

小四の時に転入して来た女子は体が大きく強気で誰も彼女に逆おうとはしませんでした。クラスは違ったものの、私は嫌な予感がしてなりませんでした。小五になり、私は彼女と同じクラスになりました。私は運命の女神に見捨てられたと思ひました。私は彼女の独裁者ぶりに我慢できなくなり、少しずつ反抗するようになりました。

そして、彼女による私への猛攻撃が始まりました。世間一般的に言ういじめです。彼女は私に聞こえるように悪口を言つたり、足を引っ掛けて転ばせました。持ち物に落書きし

たり、わざと同じ委員会に入つて私をこき使いました。他人の罪をなすりつけられる事もありました。そして彼女は他の人にも無視や悪口を強要しました。私は世界に独りぼっちそんな気がしました。彼女は先生の前では優等生のふりをし、彼女の父親は権力者で先生や学校に言つても信じてもらえなかつたでしょう。私は彼女の逆襲が恐ろしくて、学校はおろか親にも言えませんでした。

私は絶望のどん底に突き落とされました。世界に独りぼっち。全てが敵。私は毎晩悪夢にうなされました。外に出るのも怖かつたです。周りのみんなが私を嘲笑っているような気がしました。私は心も体もボロボロでした。そして、とどめの一撃は唯一の親友の裏切り。「自業自得でしょ。バーカ。」私はもう二度と誰も信じないと決めました。人を信じれば裏切られ傷つけられる。疑わなければだまされる。

私の心の傷はもう二度と治る事はないと悟りました。そして私の心の傷は身体をも浸食しました。私の目は心性視覚障という病気になりました。視野はほとんどなくなり物が真面に見えなくなりました。私の視界は真つ暗でした。それはまるで私の未来を暗示しているように思いました。

私は真つ暗な世界にただ一人取り残されている気がしました。夜、涙もなく涙が溢れてきました。言葉の一つ一つがナイフのように私の心を突き刺します。毎日死にたいと思ひました。何度も死のうと思ひました。

絶望のどん底にいた私に手を差し伸べてくれたのは一冊の本の台詞でした。「君は一人じゃない。君が死んでも世界は変わらない。だけれど、君が生きて変わるものがあるかもし

れない。だから生きて！」私は涙が溢れて止まりませんでした。私は綺麗な大嫌いです。だけれど、今だけはこの台詞を信じたいと思いました。真っ暗だった世界に不意に一筋の光が私を包みました。私の命を救ったのはこの本だと言っても過言ではありません。

それ以来、この本は私の唯一の親友となりました。現状は変わりませんが、この本が私の支えとなりました。

私は本を読むだけでなく、書くのも好きになりました。私は次第に作家になる事を志すようになりました。

私は本に救われました。だから、今度は私がみんなを救う番です。私の書いた物語で誰かを救いたいです。私の夢は誰かの心の支えになる、勇気づける本を書く事です。本の影響力はすばらしいです。私の本を読んだ人が少しでも勇気づけられるのならば、それは世界平和に一歩近づいたという事だと私は思います。

ひいばあからの贈り物

日立市立泉丘中学校 二年 松 本 駿 佑

今年の五月二十五日に、私のひいばあちゃんが亡くなりました。百一才でした。

ひいばあちゃんが百才の誕生日を迎える頃僕と兄は、映画の二十世紀少年を思い浮かべ

「二十世紀ひいばあだね。」

と言って、その長い人生におどろきました。

ひいばあちゃんは、大正・昭和・平成の三つの時代を生きてきました。戦争も経験したので、戦闘機のことや、焼い弾が落とされて燃え上がるのを必死で消したことなど話してくれることもありました。

私たちに、「物を粗末にするな」、「仲良くしないとだめだ」と口ぐせのように言っていました。きっと、私たちには想像もできない大変な時代を生きてきたから、私たちに伝えたいのだろうと思いました。

ひいばあちゃんは、私や兄とよく遊んでくれました。田んぼの道で自転車に乗る時は、近所のお年寄りと一緒に、押し車に座りながらずっと見ていました。テレビのスポーツ観戦も好きで、すもうや野球の話もたくさんしました。

東日本震災の一ヶ月前、心臓の病気で入院しました。震災の時、水戸の家のひいばあちゃんのベッドにはたんすが倒れました。もし家にいたら下じきになっていたそうです。

ひいばあちゃんは車イスで動かないと心臓に負担がかかるので施設に入りました。

私たちが会いに行くと、

「ひいばあも帰りたいよ。」

と言うのでとてもかわいそうでしたが、祖父も祖母もお年寄りだからお世話することが大変なので仕方がないということを知りました。

ひいばあちゃんの周りには会いに来る家族がいて、施設にはお世話してくれるスタッフやお友達がいて、独りになることはなく幸せにすごしました。

しかし、テレビのニュースではお年寄りの孤独死とか、お

ばあさんが寝たきりのおじいさんを殺してしまうとか報道されています。

話し相手がいること、生活のお手伝いをしてくれる人がいること、気づかってくくれる人がいることが難しくなってきたしまっているから、お年寄りは一人で頑張ろうとしてしまうのかもしれない。

もし、ひいばあちゃんが誰にも気付かれずたった一人で亡くなったとしたら辛くて悲しいと思います。

私は小さい頃から、祖母やひいばあちゃん、近所のお年寄りという機会が多かったので、お年寄りを見て汚ないとか嫌だという思いは少ない方だと思います。

でも今は、お年寄りのいる家族も少なくお年寄りと接する機会が少ないので、みんな戸惑うのだと思います。

いきなりお年寄りを助けようとするのはとても勇気がいるし、引いてしまうので、学校の授業の中でもっとお年寄りと接する機会やボランティア活動を取り入れていけばいいと思います。それを幼稚園、小学校、中学校と続けていけば、少しはお年寄りとの距離も縮まるかもしれないです。

私は、ひいばあちゃんからとても大切なことをたくさん学ばせてもらったので感謝しています。

頑張って生きてきたお年寄りが大切にされるようになってほしいです。

祖父の三回忌

茨城町立青葉中学校 二年 高橋 紗良

八月六日に、祖父の三回忌がありました。

私の祖父は、三年前に肺がんという病気で七十二歳という若さで亡くなりました。

家族が見守る中、苦しみながら亡った祖父との別れから、もう三年も経ったなんて、今でも信じられません。

三回忌で、みんなが集まり、祖父との思い出話をしました。祖父は、いつも、優しく、書道が上手で、ゴルフが大好きでした。他にも、パソコンでマージャンをするのが大好きでした。

当時、私が上手に書けた書道の作品を持って行くと、いつも、ポケットからその時あるお金を内緒でくれました。それが、祖父と私の秘密でした。最近では、その時の事も忘れそうになっていました。今回の三回忌で思い出す事が出来て、本当に良かったと思っています。

私は、書道を七年間やっています。特待生になるのが目標なのですが、なかなかありません。祖父が「もう少し頑張りなさい。」と言ってくれているかもしれないと思い、もっともっと書道を頑張ろうと心に決めました。

当時、小学生だった私が、中学生になり、テニス部に入部し、日焼けした姿を見せたら、祖父は何て言ってくれたかなあと思いました。他にも、青葉中の制服姿も、見てもらいたかったです。

家族を一つにまとめていた祖父が亡くなり、祖母は、とても寂しいと思います。三年が経ち、祖母は、どんどん小さくなっていく様に見えます。急に一人になってしまい、祖母は、どんな気持ちでいるんだろうと考えました。

私にとって祖母は、元気で明るく、ちょっと怖いけど、私達みんなをいつも気にかけてくれる心の優しい人です。私の学校の事や、部活動の事、他にも、アトピー性皮膚炎の事を心配してくれます。そんな祖母の事を、私も何とか元気にしてあげたい気持ちになりました。

祖母の気持ちと私の気持ちには違いはあると思います。しかし、これから、私に何か出来る事はあるのかを考え、祖母の気持ちによりそって、会話をしたり、行動したりしていいと思います。

家族の中の一人でもいなくなるという事は家族がこれまでの生活ではなくなり、辛い思いをする人がいるという事なのだと思います。

今回、祖父の三回忌があり、みんなが集り祖父の思い出話をし、みんなが、また、改めて、祖父への感謝の気持ちを思い出しました。

私達は、三年前に、祖父を病気で亡しました。その時、同時に家族の大切さ、命の尊さを改めて知る事が出来ました。

三回忌とはみんなが故人を忘れない為の大切な行事なのだと、心から思いました。

やさしさ。協力。思いやり

笠間市立友部中学校 二年 友部 さくら

茨城。茨城という言葉を目にした時、茨城県民でない人は何を思い受けべることだろう。茨城には、たくさんの良い場所、自然、そして伝統や食べ物がある。私は、中学生になり茨城を知るだけではなく、茨城をもっとよく知り、さまざまな場所をおとずれるようになった。

今年の六月三日、私は筑波海軍航空隊の集いに参加した。私の住んでいる地域なのに一度もおとずれたことはなかった。しかし、「永遠の0」という映画のロケ地だということ。筑波海軍航空隊の集いでは、戦争を経験した方からの当時のお話を聞くことができた。また、記念館をおとずれ、当時の具体的な内容の資料や写真を見ることができ、戦争を経験したことのない私に大きな心情の変化をもたらした。記念館をおとずれた後、私はこう思った。

「戦争は、戦争に行った人だけではなく、戦争に行かせてしまった人などさまざまな人がたくさんのものを失い、いつまでも決して消えることはない、消せることのない、かなしみや悔しみが心に残ってしまう。」

この集いに参加したことで、私の地域のこと、私の県茨城について興味をもった。また、筑波海軍についてもっと調べたと思った。

茨城とより深く考えれば、私は自分の住んでいる笠間市が

頭の中に浮かんだ。茨城といたら、有名なものは、納豆や水戸黄門ではないだろうか。しかし、私は有名なものよりも良いものがあるのではと考えた。私の住んでいる笠間市には、市の花、菊がある。菊は、色や形ともさまざまな花を咲かせる。私は小学生の頃から菊に興味をもちはじめた。私の祖母は、菊農家で、毎年夏になると手伝いに向かう。菊はさまざまな品種がありとても美しい。小学生の時は、小学校のプランターで一人一プランターずつ菊を育てた。市の花である菊は、私にとって大好きな花で、毎年見るのが楽しみである。私たちの市の花を育てるといふ活動はとてもいいと考えている。自分で育てることによって、自分の地域を考えなおすきっかけになる。私の故郷、笠間をもっと知り、将来は、笠間市の役にたてるような大人になりたいと思った。

私は笠間と茨城県について考えてみたときに、共通点があることに気付いた。それは、人の良さだ。茨城の人は少しなまっている。しかし、なまっていることによって話しやすいのではないだろうか。私の周りにはいる、家族、友達、先生方、地域の人はとてもいい人ばかりだ。なぜ、茨城の人は人が良いのだろうか。私は、東日本大震災によって人々がたがいに思いやり、協力し、助け合わないといけないことを学んだからだと思う。私自身、震災の後、協力することの大切さ、助け合うことの大切さ、たがいを思いやる大切さを改めて実感した。

このように茨城には、たくさんいい所がある。茨城は、有名なものもあるが、有名ではないものにこそ思いがたくさんつまっているということがたくさんの方々を知ってもら

い、これからもよりよい茨城をつくっていききたいと思う。そして、私はこれから、茨城県民だということにしっかりと自信をもち、他県に行っても茨城県民のやさしさを伝えていき、今よりも茨城を好きになっていきたい。私のふるさとである茨城は、これからもずっとやさしくて思いやりのある県であるだろう。

茨城で叶えたい、私の「夢」

水戸市立第三中学校 三年 山田彩水

私には前まで、夢がありませんでした。気づけば十五歳。友達は未来を見てキラキラしているのに…と不安を抱えていました。そんな私でしたが、これだけは負けない！と思えることが、一つあります。

私は英語を話す事が、好きです。得意教科でもあるのですが、英語を使って相手とコミュニケーションがとれるのがすごく楽しくて、何よりも好きでした。そんな時、「インタビューフォーラム」に出会いました。指定されるトピックについて、三人で五分間自由にカンバセーションを行う大会です。たまたま見かけた卒業生の発表を見て、驚きました。話す英語に、「色」があったからです。伝えようとする一語一語が生き生きとして、踊っていて、とても楽しそうでした。私も、こんな風に英語を使ってみたい！と憧れて、インタビューフォーラムの練習を始めました。毎日が楽しくて、充実した日々でした。

ある日、先生から当日話すトピックについての一覧表をもらいました。たくさんのおピクの中で一番話しやすいように感じたのは、「My favorite place in Ibaraki」(私が茨城でいちばん好きな場所)という題です。茨城で生まれ、茨城で育った私にとって最も話しやすい題だと感じました。しかし、実際に英訳しようとペンを握ると、思うように進みません。自分では、茨城をよく知りよく分かっていると思っていたし、その位「いばらき」という場所が好きでした。でも実際は、茨城や水戸の良さの本質を見られていなかったと、英語と関わってからそこで初めて気づかされました。

私達日本人が話す日本語と、外国人の人の英語では、表現の仕方が異なる部分があります。これは私の考えですが、英語では「なんとなく」が通用しません。YESかnoか、goodかbadかの世界です。だからこそ本当にその魅力がわかっているかと、話す英語に「色」がつかないのだと思います。いつか見た先輩方の言葉のように、英語が踊り、カラルに聞き手に伝えるために、私はもう一度茨城について調べることになりました。

水戸芸術館建設にはたくさんさんの壁があり、多くの人の思いが詰まっていること、日本で初の制度が使われていること。常澄の田んぼアートには百二十名の力と国内でも最高峰の技術が使われていること。多くの外国人観光客が訪れる国営ひたち海浜公園のネモフィラは、一年ごとに枯れてしまうので職員の方々の手によって毎年植え替えられていること。私は、知りませんでした。全て、英語が、インタラクティブフォーラムが気づかせてくれた茨城の魅力です。出会わなければ、

ずっと私が知ることのなかった茨城の良さです。

二度目の英訳はスラスラとでき、本番も堂々と話すことができました。水戸市大会、中央地区大会と勝ち進み、初めて県大会に出場することができました。とても嬉しかったです。この素晴らしい経験の他にもう一つ、英語が私にくれたものがあります。

インタラクティブフォーラムを通して学んだ、英語を発信する楽しさと茨城の魅力を人に伝える大人になりたい。茨城の魅力・英語と出会いが、生まれ育った茨城で中学校の英語の先生になりたい、という夢をくれました。夢がなかった私と英語が出会えたように好きな事を学び、夢を見つける素晴らしさを茨城の、未来の十五歳に伝えていきたいです。夢を叶えるために、さらに学習を重ねて私が大好きな町・いばらきに恥じない立派な英語の先生になりたいです。

家族の存在

ひたちなか市立那珂湊中学校 三年 水越 有

私にとって家族とは、とても大切な宝物です。どんなときでも心があたたくくなります。私はそんな家族が大好きです。私は、中学校に入学して迷わずソフトボール部に入部しました。父と兄の影響です。父は中学から今でも野球をやっています。兄は父の影響で高校まで野球をやっています。小さいころから二人のプレーしている姿を見ていた私は、自分も同じようにやりたいという思いが強く、入部を決めました。入

部して、顧問の先生や外部コーチにやりたいポジションを聞かれると、私はキャッチャーを希望しました。キャッチャーは父がずっとやってているポジションだからです。ポジション発表でキャッチャーと言われときはうれしくて、帰り道はずっとにこにこしていました。父が帰って来てすぐに報告すると、父も喜んでくれました。私は、父が応援に来てくれるのがとてもうれしかったです。良いところを見せたいという思いが強く、力んでしまったことも多くありました。試合から帰ると、打てなかったのは何が悪かったのかよく教えてくれました。良いプレーをして父に褒められると、次も頑張ろうという気持ちになりました。中央総体、仕事で試合に来られなかった父は私に手紙を書いてくれました。試合会場で手紙に気付いた私は、父からの言葉で自信を持って試合に臨むことができました。父が野球をやっていたいなかったらソフトボール部に入部していたかわかりません。父のおかげでソフトボールをいうスポーツに出会えたのだと思います。いつも力になってくれていた父に、私はとても感謝しています。

部活動は試合がたくさんありました。県外遠征にも何度も行きました。球場への送迎はいつも母でした。帰りの車で母と試合について話すのが、私はとても楽しかったです。負けて落ち込んでいるときは励ましてくれました。母には何でも話すことができました。兄の野球もある中、母はいつも試合を見に来てくれてスコアをつけてくれました。二年半で約四冊分のスコアが残っています。休みの日はほぼ一日練習だったため、お弁当持ちが多くありました。疲れていても、朝が早くても作ってくれるおいしいお弁当で午後の練習も頑張る

ことができました。最後の総体で母は県大会が決まったときに泣いて喜んでくれました。引退となったときも泣いてくれて、私は愛されてるなと感じました。冷たく当たってしまうこともあるけれど、私を一番近くで支えてくれていた母にとっても感謝しています。

家族についてよく考えてみると、私が成長していくうえで必要な存在なんだと改めて思いました。言い合いになることも少なくありませんが、これからは捉え方を変えて自分にとってプラスにできる気がします。まだ中学生なので、これからも家族に迷惑をかけると思いますが、大きくなったら恩返しできるように生活していきたいと思えます。そして、感謝の気持ちをしっかりと伝えながら、たった一つの家族を大切にしていきたいです。

世界の縮図

つくば市立吾妻中学校 三年 後藤 美穂

私が生まれ育ったのは茨城県つくば市です。そんな私がこのごろ思うのは、この茨城県という土地は、ある意味で世界の縮図のような、いいところ取りをしたような、そんな面白い土地だ、ということなのです。

その一つには、この狭い地域に様々な出身地の人が集まっているということがあります。例えば私に近所の人も、外国に沖縄から東北の一家など本当に様々で、家から一步外に出ると、いろいろな言語や方言が飛び交っています。私の両親

は神奈川県の出身なのですが、母などは全く関係なさそうな関西弁がうつってしまっただけで、面白いところだなあと思っています。そうした寄せ集まりの人たちがこの地域色豊かな茨城に住みつくことで、独特のハーモニーを生み出している、それが、我々が「ふるさと像」なのです。

では、茨城自体の特長は何か。そう考えたときにまず思うのは、いろいろなところが広い、ということ。道路から農家の家々から、広く全体に余裕があるかんじで、都市では見られない茨城の素敵なところだな、と思います。

茨城の地元の特徴的な民家は、大きな母屋があつて、同じ敷地内にたくさん家族の家が建ててある形が一般的です。母屋は瓦屋根の立派なお屋敷というかんじの日本家屋であることが多いようです。私は、こういう茨城の広々とした、ずつと大切にされてきたような民家がとてもかっこいいと思います。

近代的な学園地区の周りはこうした家屋の立ち並ぶ農村が多く、つくばに在るとそういう農家の人たちから野菜をいただくこともあります。茨城人はとても気前のよい優しい人が多いように思います。それはきつと豊かな自然と穏やかな気候のおかげなのでしょう。そして、茨城の農作物は全国でもとても有名ですが、本当に日本一なのではないかと最近つくづく感じます。この間地元の方が自分のところで育てたメロンを分けてくださったのですが、そのみずみずしさと甘さに仰天しました。そんな私を見て、父は「茨城は農業も漁業も畜産も自給自足できるほどだし、他の産業も立派にあるから独立国家になれるね」などと冗談を言っていました。しかし、

私はなんだか深く納得してしまいました。そうなのです。これが、「世界のいいところ取り」だと思った二つ目のポイントです。

その豊かさは、なにも味覚だけを楽しませるわけではありません。夏の終わりにはいたるところで青々として稲穂が風に揺られて、実りの時を待っています。こうした水田の風景は見慣れていても、はつとするほどに美しいものです。実は私の名前もそんな水田風景から付けられたそうで、初めて聞かされたときその光景を思い浮かべてうれしくなったのをとてもよく覚えています。

また、果物も多種多様なものが栽培されているので、いつも何かしら楽しむことができます。果物狩りもとても人気です。こんなに素敵な、都会で田舎なところが他にどこにあるでしょう。私は、そんな茨城が大好きです。

私のまわりの茨城生まれでない人たちも、みんなつくばでの暮らしをととても楽しんでます。自分で農地を借りて農作物を作るのにはやっています。自然あふれる土地に来ると誰でも、土とたくさん触れ合いたくなるのかもしれない。

ここ、つくばは、東京にも便利に出られるし、大人になってもずっとつくばで生活したいな、と思っています。まるで小さな世界のような、素敵な茨城は、私にとっての理想の「未来都市」です。

私の大好きなまち

日立市立多賀中学校 三年 小太刀 理子

私のふるさと日立は、自然豊かでとても素敵なまちです。日立にいと、森の緑や畑の緑、たくさん緑に囲まれていてとても空気がおいしいです。おいしいといえば日立の野菜や果物もおいしいです。日立は農業が盛んでかぼちゃやさつまいも、チンゲンサイ、メロンや梨など他にもたくさん出荷されています。全国一位の食材もあります。

海や川もあります。海の幸も豊富でシラスやヒラメ、アンコウが有名です。ヒラメは茨城県の魚に登録されています。私の学校からはその海を見ることが出来ます。また、私の家のすぐ向こうには鮎川とたくさん木々があります。春は桜が一面に広がります。夏の暑い日は、セミの鳴き声と共に川の流れる音も聞こえます。川の涼しげな音で心も体も涼しくなり、勉強に集中できます。透明な水の中には、川の名前にもあるように鮎が見えます。冬は他の季節と違い、木々は静かに休み、川の音だけが周りに響き渡ります。華やかな姿も素敵ですが、私は静かでおしとやかな姿も好きです。このように私は毎年この四季折々の自然を見て、自然が美しい日立に生まれてよかったです。

日立は工業も盛んです。私の身近にある家電製品は、どれも日立のもので。日立の商品がお店に並んでいるところや、日立の商品がテレビで紹介されているところを見ると、私がつくったわけではありませんが、とても誇りに思います。そ

して私のまちは素晴らしい所だと思っています。

日立には功績を残した先人が沢山います。今では日本を代表する大きな会社に成長した日立製作所は、久原房之助さんが赤沢鉦山を買収し、鉦山用電気機械の修理工場を設置したことが始まりでした。その後の小平波平さんが日立製作所として経営を始めました。このように、今、日立が輝いているのは、長い歴史の中で素晴らしい先人たちの努力があったからです。

私は約五年間ダンスをやっています。これまで様々な曲でダンスをしてきました。「ハイタッチダンス」はひたちをアルファベットで書くこととハイタッチと読むことから名づけられています。「YOU!ME!ON!」は日立市出身の吉田正さんが作曲した「いつでも夢を」をもとにつくられました。「エバーラッキーダンス」は茨城県民の歌をもとにつくられ、茨城県民の歌の歌詞もダンスの中で出てきます。「雨情ミックス」は茨城県出身の野口雨情さんが作詞した「シャボン玉」をもとにつくられました。これも歌詞がダンスで使われていて、「シャボン玉飛んだ…」からダンスが始まります。茨城県民、日立市民として茨城、日立の踊りを踊っていると、とても幸せな気分になります。そしてこれからも踊り続けて、盛り上げていきたいと思っています。

旅行に行ったときなどに、日立に帰ってくるとなぜかは分かりませんが、不思議と落ち着き、日立が一番だなとも思います。日立は他の場所に比べて、夏は涼しく冬は雪があまり降らず交通面で困ることもありません。昨年度スキーなどを体験する宿泊学習のときに老人ホームの雪かきをお手伝

いしたのですが、思っていた以上に大変で、三十分から一時間の作業でも疲れてしまいました。雪が多い地域の人たちは毎日こんなつらいことを頑張っていると思ったら、夏も冬もいつでも過ごしやすい日立に住めて「ありがたい」という気持ちになりました。

最後に、私は今住んでいる、茨城、日立が大好きです。大好きだからこそ、日頃から感謝の気持ちを持たずに、茨城、日立のために奉仕作業やボランティア活動に積極的に取り組んで、良いまちづくりに貢献できるようにしたいです。また茨城、日立の魅力を沢山の人にアピールしていきたいです。

十年後の家族

那珂市立瓜連中学校 三年 黒 須 結 那

私は今、十四歳です。十年後には二十四歳になっています。二十四歳になった私は、大学も卒業して就職している頃だと思います。今は、将来やりたいことや将来に夢はありませんが、就職する時は自分がやりたいことを仕事にしています。いいです。そうすれば仕事をするのが楽しいと思えると思うので、好きなことをやってほしいです。逆に、十年後の私でなつてほしくない姿は、熱中するものがなく毎日なんとなく過ごしている生活です。そうならないために、趣味などを見つげたいと思います。

十年後の母と父は五十四歳です。五十四歳になった母と父は、どんな生活を送っているでしょう。とてもよく食べて、

二人で散歩に行ったりどこか遠くにドライブしに行ってみたり。今と何も変わらない生活をしてほしいです。そのために、今からできることはたくさんあると思います。食生活に気をつけたり、軽い運動をする習慣をつけたりなど、健康に気をつけてほしいです。そして私は、就職していると思うので、そのお給料で両親においしいご飯をごちそうしてあげたり、温泉に連れていったりしてあげたいです。そして、今の生活と変わらず仲良く元気に長生きしてほしいです。

私は今、祖父母と母の妹とも一緒に住んでいます。祖父母は十年後、八十歳になっています。母の妹は四十四歳になります。祖父母は介護が必要となるでしょう。今は、とてもうるさくて祖父にとてもきつい言葉で話してしまいます。それでも祖父は、塾の送り迎えや学校へ行く時、外に出て見送りしてくれたり優しくしてくれます。畑仕事も頑張ってくれていて、夏になるとピーマンやナス、オクラ、とうもろこしなどたくさん野菜を採ってきてくれます。それが十年も経つと見られなくなっているかと思うと、とても悲しくなります。だから私は、今の一日一日の時間を大切にして生活したいです。

祖母は、家の庭の草取りやおいしいご飯を作ってくれたり、家族の健康を考えてくれたりしてくれます。十年後は私が、祖母の健康を考えていると思います。そんな毎日とても明るくて元気で優しい祖母も、足腰が悪くなり、寝たきりの生活を送る日が来るでしょう。その時は私が、たくさんお話をして笑顔にしてあげたいと思います。

十年後の家族はどうなっているでしょう。皆、何かしらの

病気にかかってしまったり、体のどこかが不自由になってしまっているかもしれない。でも、絶対に介護施設などに入らせてはいたくないと思います。大変だとは思いますが、皆で一緒に暮らした方が絶対に楽しいと思うし、コミュニケーションをとることによって認知症などの予防にもなると思うからです。そして、私は新しい家庭を築き、祖父母にはひ孫を、両親には孫を早く見せてあげたいと思います。十年後も楽しく元気で皆と一緒に暮らしていることでしょう。

将来の夢

茨城県立友部特別支援学校 高学部一年 磯貝七海

私の将来の夢は、介護士になることです。なぜ、介護士になりたいかというと、私にはおじいちゃんやおばあちゃんがいてまだ元気ですがいつかは介護をしないとけない日があるのかなとおもいます。自分は人をほっておけない性格なので、なにかやくにたてることはないかという考え、できそうだなと思ったのが介護士でした。

自分の夢をかなえられるように、たくさんの人をたすけたり、本を読んで学んだり、友達にききながら少しずつ勉強をしていこうと思います。大人になり上手くいかなかった時、介護士になるという夢をあきらめてしまわないかという不安もあります。

私が、介護士になったらおじいさんやおばあさんのことをせわをしたり、一緒に話をしたいです。またいろいろな人を

ふあんにさせないようにしたいです。私は、この介護士という夢があつて、私は笑っていることが好きなので、おじいちゃんやおばあちゃんのことを笑顔にして、たくさんの方の笑顔が見られるようにがんばりたいです。それにいろいろな物を作ったり、一緒におりがみをおったり、散歩したりして、楽しく過ごせるように考えていきたいです。やることは多いけれど、同じ仕事をやっている人たちに教わりながら、おじいさんやおばあさんが、よろこんで楽しめる介護士になれるようにいろいろなところでどりよくをしていきたいです。また一生けんめい勉強したり、いろんなことをまなびながらやっていけるように、笑顔をわすれないようにしていきたいです。

私は、人の名前をおぼえるのがにがてなので、早く覚えられるようになんかいもききながらやっていきたいです。介護士という仕事は本当にやるのが多くたいへんでおいつかないぶぶんもあるとおもいますが、それでもあきらめずに、最後までせいっぱいがんばるようにしたいです。自分のできることを少しずつ増やし、つねに目標を持って前をむいていきたいです。また教わる方から、自分がおしえてあげられるがわになれるようにどりよくできるようにしていきたいです。

私はこの介護士になる夢は、自分でもあつているんじゃないかなとおもいます。自分が一番なりたい夢を目標として、自分がなりたいことをこのまんですんでいけるようにがんばってかなえられるようにしたいです。

私は、今よりも小さい時、どんな仕事をしたいかなど、いろいろ考えていたけど、やっぱり小さい時は、いろいろなや

むこともあったけど、今の自分にとって一番かなえたい夢が、介護士で、それはずっとかわらなくてどうしても自分の夢をかなえたくて、だからこれから大人になっていくなかで、少しずつ勉強やいろんなことをまなんで、わからないところはいろんな人にきいて自分が介護士になるというじかくをもち、自分が介護士になる夢をしっかりとかなえられるようにがんばりたいです。私が、この夢がかなえられて、よかったとおもえるようにしたいです。だから、最後まであきらめないで、がんばっていききたいです。

大いなる筑波山

茨城県立下妻第一高等学校 一年 三 谷 将 平

自分が誕生してから約十六年。僕が生まれ育った下妻市からは、あらゆるところから筑波山が見えます。この十六年間の自分を振り返るとき、心のアルバムの中にはいつも筑波山が存在し、僕の成長を見守ってくれていたように思います。両手を大きく広げ、いつも僕を励まし、深い愛情をもって包み込んでくれる、そんな父親のような存在であったとも思います。

筑波山は、西側の男体山と東側の女体女からなる、標高八百七十七メートルの山です。日本百名山の一つで、万葉集に詠まれるなど古来から人々に愛されてきた山で、茨城県のシンボルの一つと称されています。自然の多い茨城県ですが、その中でも筑波山は、圧倒的な存在感と知名度を誇っている

と言えます。四季折々で変化する美しい景観、一日の見る時間帯によって異なる色合いなど、見る者を楽しませ癒してくれる、大いなる筑波山です。

大いなる筑波山を身近に感じるのは、ただ自分の住む町からいつも見えるからというわけではありません。成長を見守り、励まし、深い愛情で包みこんでくれると思う理由は、僕のこれまでの歩みの中に、すぐそばに、筑波山があったからです。

僕が初めて筑波山を登ったのは、四歳の時です。二歳年上の兄の保育園行事である親子登山と一緒に参加しました。つじヶ丘から登るおたつ石コースから白雲橋コースに合流するルートを元気に登ったり他の家族に負けたくない思いで、必死に登った記憶があります。山頂でおにぎりをほおぼり、笑顔はじける親子の写真が、今でも我が家には飾られています。この親子登山に二回参加しましたがどちらも筑波山のおいしい空気とおいしいお弁当を味わい、清々しい気分登山を楽しんだ思い出が残っています。

小学生になった僕は、少年野球チームに所属し、六年間無我夢中で野球に打ち込みました。大好きな野球に思う存分取り組みながら、たくさんの人とも出会いました。厳しく優しい指導者の方々、自分達のために様々なことに力を貸してくれ支えてくれた保護者の皆さん、そして、苦楽を共にしお互いに励まし合い一緒に野球に打ち込んできた仲間達。そんな人達とも、年に一回筑波山に登りました。下妻市では、スポーツ少年団が一同に会して年一回の筑波山ふれあい登山を開催しています。いつもはグラウンドで一緒の仲間たちと、御幸ヶ

原コースを歩きます。このコースは、ケーブルカーのルートに沿った険しいコースです。始めは雑談しながら笑顔で登っていますが、徐々に苦しくなってきました。でもそんな時、筑波山から見下せる雄大な景色や山の途中にある名所のふれることで心が和み、つらいことにも立ち向かう勇気がわいてきます。そして、山頂に着いた時は、何とも言えない達成感と充実感を味わう事ができるのです。この年一回のふれあい登山は、僕の心と体を成長させてくれました。

中学生になった僕は、多感な時期を迎え、多くの悩みを抱えるようになります。野球のこと、体の成長のこと、受験のことなど、壁にぶつかったり不安に押しつぶされそうになったり。そんな時も筑波山はそばにいました。

僕の家族は、新年を迎えた朝四時頃から、初日の出を山頂から拝もうと、毎年筑波山に登ります。僕も四歳から一緒に登るようになりました。コースホテル跡地から登るルートを暗やみの中、黙々と無心で登ります。山頂に着くとさらに女性山の岩場まで登り、初日の出がお目見えするのを待ちます。白い息を吐き、澄んだ空気を一気に吸い込むと、心が洗われるようです。関東平野が少しずつ目の前に姿を現わし、富士山やスカイツリーが見えることもあります。六時四十五分頃初日の出がお目見えし、ご来光に手を合わせます。僕は、手を合わせながら、自分の目標や願い悩みを唱えてきました。筑波山からの初日の出を拝み新年を迎えることで、決意を新たにし、また一年努力をしながら頑張ろうという、前向きな気持ちになりました。

そして今、僕は高校生になりました。勉強と野球、文武両

道を実践しながら、忙しくも充実した毎日を送っています。野球部では、毎年一月四日、筑波山神社を参拝し、チームの目標達成祈願をするそうです。その後御幸ヶ原コースを往復二回走るといふ過酷な行事もあるそうです。四歳の時から登ってきた筑波山を十六歳になる僕は、体力の限界に挑みながら登ることになりそうです。

幼い頃からこれまで、僕の成長してきた歩みの中には、いつも筑波山がありました。親子団らんの楽しみ、仲間との絆、勇気、決意、向上心、鍛錬……。様々なものを僕に皆に与えてくれる大いなる筑波山、そんな筑波山が、僕は大好きです。

茨城の魅力

茨城県立下妻第一高等学校 一年 木村友乃

みなさんは、「茨城」という単語を聞いたとき何を思い浮かべますか？きつと、田舎とか田んぼとか畑を思いうかべる人が多いかもしれません。しかし、茨城にはそれだけでなく、たくさん素晴らしいことがあります。

例えば、人からの良さです。私が朝に学校に行こうとするとおじさんやおばさんなど、さまざまな人があいさつをしてくれます。また、自分の畑を持っている方が多いので、自分の家の畑でとれた野菜を持ってきてくれることが良くあります。茨城の人々は食の部分はもちろん、ほかの部分でも助け合っていることが多々あり良い県だなとしみじみ思います。都会でも、交通の便が良かったり、たくさん洋服屋さんや

雑貨屋さんや、おしゃれなお店があったり、良いところがたくさんあると思います。でも、茨城にも良いところがたくさんあるということさらさら人々に知ってもらえたらうれしいです。

さきほど、茨城県の魅力の中には人がらの良さがあると言いましたが、もちろん私が通っていた幼稚園から高校までの友達や先生も良い人ばかりでした。特に先生からは強く影響を受けました。勉強をやさしく教えていただいたことはもちろん、勉強以外の生きていく上で必要なことなども教えていただきました。困っているときは助けてくれて、私もこんなふう困っている子どもを助けてあげたい、笑わせてあげたいと思うようになり私の将来の夢は先生になりました。この「先生になりたい」という私の夢は、今まで教えて下さった先生はもちろん、私の家族や友達があつたからだと思います。私はこれからもこの先生になるという目標をすてずに、勉強をがんばっていきたいと思います。また、家族や友達や先生を大切に思って生活していききたいです。

私もし、先生になることができたら、最初の方は難しいかもしれないけど、子ども達全員を笑顔にできるような先生になりたいです。

今年の夏、私は高校から母校の小学校へ勉強のサポートへ行くボランティアをしました。小学校六年生をサポートした私は最初はきんちょうしすぎて頭の中が真っ白になってしまいました。でも、六年生の子たちが話しかけてくれたりしてとても良い体験となりました。この場であらためて、先生という職業は素晴らしい職業であること、子ども達はかわ

いいということを実感しました。「先生」は、もちろん大変な職業だと思えます。幼い子どもの人生を左右してしまう場合だと思っています。でも、それをのりこえてやりがいを感じるのがこの職業の魅力の一つであると思います。今までたくさん先生の先生方が私に優しく、時には厳しく接して下さり、アドバイスをして下さったように、私も先生になることができました。ときには子ども達にそのように接していきたいと思っています。

私は今までの生活の中で茨城を嫌だとか思ったことは一度もありません。それもこの茨城県のおだやかな環境と優しい人々に囲まれ育ってきたからだだと思います。きっと茨城県民全体がそう思っていることでしょう。茨城ではさまざまな野菜やお茶や肉などが代表的な特産品としてだされており、食べ物の中で不自由することは一切ありません。

私はまだ、茨城に住んで何十年もたつてはいないのでまだ知らない茨城の良さがあると思います。これからもっともっと生活していく中で茨城の良さを知っていきけたらいいなと思っています。

これからはもっと茨城の特産物や伝統文化などをさまざまなメディアを使って広めることができればたくさんの方に茨城の良さを使えられるのではないかと思います。

たくさんの方がまだ茨城の魅力を知らないと思うので、さまざまな手段を使って茨城をしっていただけたらとてもうれしいです。

私の幼馴染、私が住むまち

茨城県立水海道第一高等学校 一年 青島乃愛

私には、保育園に通っていた頃からずっと一緒だった幼馴染がいます。幼馴染と出会って十年以上経ちました。大切な人やものは、無くなつてから気づくとよく言われています。私は、その幼馴染と離れることで幼馴染の存在の大きさに気づくことができました。

幼馴染と離れることになったのは、中学三年生の時でした。偶然、幼馴染と遊んでいるときに幼馴染の祖父が「引越すんでしよう？」と幼馴染に言っているのが聞こえ、驚きました。幼馴染は一番最初に引越すことを友達ではなく私に教えてくれました。一番最初に話してくれたという嬉しさと、十年以上一緒にいる幼馴染と離れてしまうという悲しみでその時はいっぱいでした。

そして、幼馴染は六月に転校してしまいました。それから少しの間、学校での楽しみが減りました。休み時間や登下校の時も一緒にいて話をする、楽しかったこの時間がなくなってしまう。なくなるだけで楽しくなくなるくらい一緒にいた時間はとても長かったのだと実感しました。

しかし、幼馴染の引越しは、他の友達と仲良くなる良い機会でもありました。今までは、暇さえあれば幼馴染と一緒にいる、ということが多く、周りに人と比べると仲の良い友達以外と接することが少なかつたと思います。だから、私にとって幼馴染の引越しは悲しかったけど自分を変えるチャンスで

した。コミュニケーションを上手くとることは、なかなかできなかつたけれど、たくさんの人と関わりたくなさんのことに挑戦することができました。あまり話したことがない人とも話すことが多くなり嬉しかったです。いつも人に頼りがちな部分を少し直すことができた気がします。

このように、幼馴染は私をいつも成長させてくれます。他にも、応援したり、支えてくれたり、悩みを聞いてくれたりしました。たくさん助けられました。ときには、十年以上一緒にいる幼馴染とケンカをすることもあるし、苦手なところ、言えない事もあります。でも、幼馴染と一緒にいることで一人ではできなかったことも二人で行うことでできるようになります。私は幼馴染と共に生きていくことで自分の世界が、人生が広がっていくような気がします。実際、幼馴染が好きなものを一緒に見たり、聞いたり、それについて話しているうちに自分も好きになったことがあります。この好きなものは、やりたいことを増やしてくれました。好きなもの、やりたいことは将来につながっていて知らなかつたことを教えてくれた幼馴染に本当に感謝しています。

他にも、たくさんのものを与えてくれます。幼馴染は、私と違って思っていることをハッキリ言います。自分と違う良いところを持つている人と関わることで自分の短所、長所を見つけることができました。

たくさんのものを与えてくれる幼馴染の存在は私の中で大きくなっています。幼馴染のように私も、誰かを支えたり、何かを与えることができればいいなと思います。身近に、「幼馴染」という目標とする人がいることは幸せです。だから、

後悔することがないように友達や家族と良い信頼関係を築いていき、大切にして生きていきたいです。生きていくには、必ず誰かの支えが必要です。その誰かは家族だけでなく友達や幼馴染も含まれています。

まだまだ、人生は長いです。その長い人生を無駄にしないためにも、人とのコミュニケーションを大切に、良い友人関係、信頼関係を築き、新たな発見をする。これを繰り返すことができたらいなと思います。ときには、友人関係は人付き合いで悩むこともあるかもしれませんが、それも良い経験になると思います。

私は、私を成長させてくれる幼馴染が大好きです。私と幼馴染が出会えたのは両親と茨城のおかげだと思います。茨城で生まれて育ったからこそできる経験や思い出、挑戦があります。茨城での思い出や経験は将来、役立ちます。

茨城で生まれて、育ったからこそ今の自分があるのだと思います。そして大切な幼馴染とも出会えたのだと思っています。だから、家族や友達、幼馴染、そして茨城に感謝して、後悔しないように生きたいです。そのために、一秒一秒を大切に、たくさんの経験を生かせるようにしたいです。大好きな幼馴染や家族、茨城に恩返しができるくらい成長したいです。

私は、私を成長させてくれる幼馴染、たくさんの思い出をくれる茨城が大好きです。大好きなものたちを大切にすることでなく、これを知らない人たちに伝えていきたいです。

これからの茨城に必要なこと

大成女子高等学校 一年 亀 井 美 紀

茨城県は、食材が豊富で自然いっぱいなどとも良い県だと思います。私が住んでいるひたちなか市でも自慢できる物はたくさんあります。しかし、今の茨城は知名度が低く、魅力度ランキングでは最下位という結果になっています。このことを初めて知った時、本当にショックでした。なんとか茨城のいいところを全国に伝えたい…。そのためにはどうしたらいいだろうか。

そこで私は、良いところやこれから改善していきたい所を考えてみることにしました。

まず最初に自然について考えました。茨城は、海に山、国内で二位の湖面積をもつ霞ヶ浦や袋田の滝などたくさんの自然があります。私の住んでいるひたちなか市では、国営ひたち海浜公園にある「ネモフィラ」という花が有名です。毎年たくさんの観光客が来てくれます。このネモフィラは、毎年四百万以上咲かせます。国内でも何百万も咲いているのは少ないと思います。なのでこのネモフィラは絶対に全国に伝えるべきです。

逆に、私は海や川の水が汚いと思うことがあります。私はたまに海に行くことがあるのですが、周りにはゴミがあちこちに落ちているのです。そのゴミが原因の一つなのではないかと思います。そのゴミを減らすためには、一人一人の協力が必要です。海はゴミを捨てる場所ではなく、みんなが

使う場所です。少しでもごみを持ち帰る人が増えれば水はきつときれいになるはずです。そして茨城の海の美しさを全国にアピールしたいです。

次に、食材について考えました。茨城で有名な食べ物といえば、納豆、レンコン、メロン、ほしいもなどが有名です。特にレンコンは、全国の半分以上が茨城県産で出荷量、産出額が日本一です。メロンも出荷量が日本一でさまざまな種類のメロンが栽培されています。私の住んでいる所は、ほしいもの大部分を生産しています。ほしいもには、たくさんの種類があり、子供から大人まで楽しめる食材の一つだと思います。また、茨城といえば納豆というイメージを持っている方も少なくないと思います。茨城の納豆は、古くから生産が盛んです。このように茨城には、生産の盛んな食材が他にもたくさんあります。私は、食材豊富な茨城をたくさんの人に知ってもらい、たくさん食べてほしいと思いました。

しかし、たくさん食べて欲しいからにはたくさん作らなければなりません。今に社会は高齢化が進んでおり、農業従事者数や総農家数は昔と比べて減少しています。人手不足にならないように若者達にも農業について興味をもつてほしいと思います。茨城は全国でも農業がさかんな県の一つで、もつと農業のことをアピールできるのではないかと思います。

私は、小学生のころ米作りをしたことがあります。田植えを行い、しばらくたってから稲刈りをして、とても大変な作業でした。現在は、全て機械でやっていますが、昔の人は全部手作業でやっていたので、体験を通して昔の人の大変さがよく分かりました。それに米作りの難しさについて実感する

ことができました。米は、茨城でさかんに作られています。茨城の米のおいしさも日本全国に自慢できると思います。

最後に、こうやって考えてみるとたくさん良い所が出て来ました。こんなにあるのに人気がないなんて、何でだろう…と不思議でした。私は、自然で溢れた、農業が盛んな茨城県が大好きです。これからもっと改善していくべきな所は、少しずつ改善したいと思います。茨城は、今は最下位かもしれないけどその分伸びるチャンスがたくさんあります。これから先へ、茨城にしかないことやものを全国に届けられるとうれしいです。私達にとって、茨城はとても大切な存在です。もし、茨城がなかったら、不便な事が山ほどあります。茨城の素晴らしさを全国の人に届けてほしいと強く思います。そして、いつか茨城の知名度が上がるように願っています。

「夢」の素晴らしさ

茨城県立常陸太田特別支援学校 高学部一年 小 又 加 奈

私は「夢」という言葉が大好きです。私は「夢」という言葉は素晴らしい言葉だと思います。そして、夢をもつ事は素晴らしいと考えます。夢をもつ事は素敵だと考えます。夢…、その言葉を口にする、あるいは頭の中に思い描くと、どんなに疲れていてもそして、どんなに落ち込んでいても、フワフワと虹の道を歩いているような、楽しく行き先を明るく照らしてくれる、そんな気持ちになれるのです。そんな素晴らしき気持ちになれるのです。つまり、モチベーションを上げる

事が出来るのです。とても素晴らしい言葉だと思いませんか？とても素敵な言葉だと思いませんか？私も、とても良い言葉だと断言します。とても素晴らしい言葉だと思いませんか？私も、とても良い言葉だと断言します。

さて、今の私にはたくさんの夢があります。今の私には自分の心の中の箱からあふれてしまいそうな程のたくさんの夢があります。祖母に、夢をもつ事は素晴らしい事だとよく言われました。また、欲張りな自分の心の中の箱からあふれてしまいそうな程の夢をもっています。例えば、将来就きたい職業への夢、お金持ちになって、写真でしか見たことのない海外へ行く夢、宇宙へ行く夢…、その他誰もが聞いたことのないぐに実現するんじゃないかと思われる様なとてもささいな夢。そのたくさんの夢が私の中で柱になっているからこそ、今の自分があるのだと思います。その自分の心の中の箱からあふれてしまいそうな程のたくさんの夢が私の中で柱になっているからこそ今の自分があるのだと思います。中学校という温かい環境を卒業し、ある程度の判断を自分でくだし、行動の答えを見つけ出さなければならぬ少し大人の世界へ飛び込んだ私は、慣れない事と初めての事だらけで毎日疲れて眠さとの戦いです。そんな時たくさんの自分の夢を思い出します。自分の心の中の箱からあふれてしまいそうな程のたくさんの自分の夢を思い出します。そんなにささいな事であっても、私の気持ちを奮い起こしてくれているのです。それに向かつて頑張ろう！頑張らなくては！というスイッチが入るのです。

次に「夢」は、誰もが平等に、自分の中に思い描く事が出来る、素晴らしいものでもあります。素敵なものでもあります。

す。男女差別や、大人だから、子供だからと、色々な場面でも気にする事なく、誰もが自由に手に入れられる夢は、すごいものだと思いますか？素晴らしいものだと思いますか？私はまた、断言します。素晴らしいものだと。素敵なものだと。また、夢には大小もなければ、立派な夢、貧相な夢という格付けもありません。人と比べて恥ずかしい思いをする事はありません。夢は、その人その人の心の中では誇らしくとても立派な存在なのです。その人その人の心の中では素晴らしいとても素敵な存在なのです。

更に、そんな夢をもっている人の目の輝きや体からにじみ出るオーラの様なものを感じ取る事も大好きです。そんな夢をもっている人の目の輝きや体からにじみ出るオーラの様なものを感じ取る事も素晴らしいと思います。自分だけではなく、周りの人が夢に向かって頑張る姿を見るのもまた、自分へのエネルギーを与えてくれるのです。自分へのパワーを与えてくれるのです。例えば、スポーツ選手です。夢に向かってつき進んでいる鋭い目つきや姿勢は観戦する人をくぎ付けにしてしまいます。だからこそ、得点が入ったときに私達は周りを気にせずお腹の底から大きな声を出して「やったー！」と立ち上がって大喜びするのです。いつの間にか選手からパワーをもらっているのです。それに気付いていない人もたくさんいるのではないのでしょうか。やっぱり夢は素晴らしいです。夢は素敵です。

私は「夢」という言葉が大好きです。私は「夢」という言葉は素晴らしい言葉だと思えます。そして、夢をもつ事は素

晴らしいと考えます。夢をもつ事は素敵だと考えます。最低一つでも夢をもっている限り、これから先進まなくてはならない陰しく厳しい道も明るい道へと照らしてくれるはずです。明るい道へと照らしてくれます。これからも自分の夢に向かって頑張りたいと思います。

